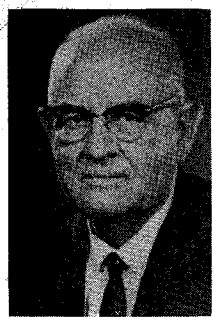
1968年4月30日発行（毎月1回30日発行）第12巻第4号
昭和43年12月3日第三種郵便物認可

聖法の道

4



霊感あるメッセージ

12使徒評議員
スペンサー・W・キンボール

たしかにこの世の人々は，かつてないほど神からの啓示を必要としている。主が昔のパレスチナに住んでいたほんのわずかな人々にだけ啓示を通してその貴重なことがらを教えようとなさった，と考えたり，イスラエルの子孫がいましめを守って生きなければ天を閉じてしまおうと主が語られたように，今日このさしせまった時代に啓示が与えられないなどと考えることは，不合理なことではないだろうか。主は，次のように述べておられる。

「わたしはあなたがたの誇りとする力を砕き，あなたがたの天を鉄のようにし，あなたがたの地を青銅のようにするだろう」レビ記26：16

もし聖書が“最後の予言者の書”であるというならば，それは信仰の欠如によるのである。そういうわけで，信仰に欠ける時はいつでも天は閉じられ門をとざされて鉄のようになり地は青銅のようになったのである。

主は決して人々に強制をなさらない。

信仰がなければ顕現（しめし）は与えられないのであり，人々が自分自身の限られた考えや解釈に頼って満足しているのなら，主は当然人々の選ぶがままにまかせておかれるのである。

我々はたしかに神が生きておられ，昔も今も永遠にわたって変りたまわないことを知っているので，人と神との交わりの深さの度合によって人々の信仰のあつさと霊性とを測ることができるのである。

もくじ

予言者のことば……39
復　活……41
心の中で……44
管理監督会のページ……48
扶助協会……50
日曜学校……53
若人のページ……56
ＭＩＡ……59
系　図……61
伝道部長会メッセージ……63
ローカルニュース……64
スポークン・ワード……裏表紙

子供のページ

くつの中から出た「たからもの」……9
こいぬがしったこと……11
レーモンとにわとり……13

教会歴史

4月6日

1830年：末日聖徒イエス・キリスト教会回復さる。

1877年：セント・ジョージ神殿献堂さる。

1893年：ソルト・レーク神殿献堂さる。

4月7日

1829年：ジョセフ，スミス，モルモン経の翻訳を開始する。

4月9日

1951年：デビッド・O・マッケイ９代目の大管長に支持さる。

4月20日

1958年：ニュージーランド神殿献堂さる。

今月の表紙
ヨーロッパの風景

カットは石井尊士兄弟（横浜）

＜予言者のことば＞

キリスト

よみがえり給えり

大管長　デビット・O・マッケイ

体を有ちたもう神の存在をうけいれなくては，だれも私たちがイースターとして祝うできごと，復活をうけいれることができませんし，それに対する矛盾のない確信を持つこともできないのであります。復活によってキリストは死にうちかたれました。イエスの復活を信ずることはまた人間が不滅であるということをも意味するのであります。

イエスはちょうどあなたや私が出会っているように，この世のすべての経験を経られたのです。苦しみを経験し幸福を知りました。そしてすべての人々と同じように死を味わいました。死の後もイエスの霊は生き，そのようにあなたや私の霊も生きるのであります。

次のように言えることは言葉に尽せない「たから」であります。

「わたしは知る。わたしをあがなう者は生きておられる。後の日に彼は必ず地の上に立たれる。」

（ヨブ記　19：25）

生ける贖い主をこのように証しできる人はその身も霊も永遠の真理にしっかりと基いをおいている人であります。人の霊が死の入口を通り誇らかに永遠の生命へとのぼることは，私たちの贖い主キリストが与えられた輝かしいメッセージの一つであります。キリストにとってこの地上の生涯はたった一日のことであり，その閉幕は，ただ一日の太陽が沈むことでした。わずかな眠りにしかすぎない死は，永遠の王国の素晴らしい朝のめざめにと

死を恐れる理由は何もない，それは人生のひとまくの出来事にすぎない。

ってかわりました。マリヤとマルタが暗い墓に横たわっている兄弟のラザロを見た時，キリストはラザロがまだ生きていることを知っておられました。このことをキリストは「ラザロは眠っているのだ」と短い言葉で言われました。

復活祭の礼拝に参加するすべての人が，十字架にかけられたキリストが実際に三日目に墓からよみがえられたこと，霊界で他のものたちと交った後，その霊はつき刺された肉体を再び活かして，四十日間，人々の間に留まられた後，栄光化されたお方として御父の許へ昇って行かれたことを知ったら，今日疑いと不安になやむ人たちにどれほどの平安がもたらされることでしょうか。

人が不滅であるという知識は，イエスが現実に復活したもうたことに基いを置いているわけでないことは本当ですが，それにもかかわらず，イエスが墓からよみがえりたまい弟子たちと交わりたもうたという確かな事実は多くの面で，人が不滅であるという望みを最も強固に支えるものであります。

従って死を恐れる理由は何もありません。死とは人生に於ける一幕の出来事にすぎないのであります。それは誕生と同じく，自然なことであります。私たちはなぜそれを恐れなければならないのでしょうか，ある人はそれがしばしば最も貴重なものとしている生命の終りだと思っているので恐れるのです。永遠の生命は人に与えられる最大の祝福であります。

もしも人々が暗い陰うつな墓を希望のないまなざしで見つめることを止めて「主のみこころにそおう」とするなら，その眼を天に向け「キリストがよみがえられた」ことを知るに相違ありません。

キリストはこの世を罪から贖うために来られました。すべての人々に対する愛を抱いてすべての人々の罪を贖い再生されるために来られました。キリストを私たちの理想像として選ぶことによって，私たちは自らのうちにキリストのようになりたいという望みを持ち，またキリストと共に親しく交わることのできる人間になりたいと望むものであります。私たちは自らがそのようになるべきものまたなり得ると諒解しているのであります。

十二使徒の長であったペテロや疲れを知らぬパウロ，また予言者ジョセフ・スミス及びよみがえりたもうたキリストに真実従った人々はキリストをおのおのの救い主として認めていました。何とならば，主は「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」（モーセの書１：39）
と仰せになり，社会主義や共産主義国家を永続させるために個人を犠牲にせよとは仰せにならなかったからであります。

キリスト教会の会員は，罪のない「人の子」をその理想像としてうけいれる責務を負っているのであります。キリストこそかつてこの地上に生をうけたもののうちで，唯一の完全な御方であり，崇高かつ高貴な模範であり神性をそなえた御方であり，愛の完全なお方であり，贖い主であり，救い主であり，天父の清らかな独り子であり，光であり，生命であり，道であるのであります。

心の奥底から私はイエス・キリストによって死が克服されたことを知っていると申し上げます。なぜならば贖い主は生き給い，そのように私たちも生きるからであります。

復　活

十二使徒評議員会補助

スターリング・W・シル

私たち人間のもつ最も偉大な思想は，個人が不滅であるということ，身も霊も永遠の栄光を受けるということでなければなりません。生命の創造者である神は私たちの永遠の進歩と幸福についての聖なる計画の創造者でもあります。私たちがその計画を私たちの生活の側へ引き寄せることができなければ，この計画はその可能性を失ってしまうのです。何事に於いても完全に通じている人は一人もいないのですから詳しく全てのことを理解していないということによって，信仰を持ちまた従順になることを妨げられるべきではありません。私たちは自分の誕生や生命や死についてわかっていません。ある人々は自分たちが理解できない事は何も信じる事ができないと言います。けれどもこの哲学は私たちの信念に如何なる本質的な成功も不可能であるという厳しい制限を付すものであります。

イエスの最も意味深い教えの一つは「信じる者にはどんな事でもできる」という大切な宣言であります。もし健康と食物の法則を信じるなら，たとえそこに含まれるすべての過程を理解していなくても大きな祝福を受けます。これは電気についてよく知らない人でも光，電力，熱の恩恵を受けることができるのと似ています。

私たちは万有引力の法則を発見したアイザック・ニュートンを賞讃するものですが，その引力自体は発見されていません。引力が作用するいくつかの事象を発見しているだけであります。誰一人として電気・太陽光線を真に理解してはいませんし，どのように草が生えるのかも知ってはいません。また心がどのように働くのか，細胞がどのように再生するのかも知りません。今から300年余り前のハーヴェイの時代まで，血液がどのように循環するのかわかりませんでした。現在でも，近代的によく設備された研究室にいる最も賢明な科学者でさえ赤血球を創り出すこともあるいはどんぐりを創り出すこともできないのであります。誰一人として生命を創造し，死を防ぐことができません。存在に於いて，最も貴重なものは生命であり，人生に於いて最も重要な出来事の一つは死であります。

死は不滅へ到達する門であります。明らかに死は偶然な出来事でもなければまちがいでもありません。

肉体が一時的に霊と肉とに分けられるのは神のご計画の一部であります。すなわち，肉体が復活し，身と霊が昇栄する前の霊の最後の清めであり，体験なのです。

多くの人々は死やそれにまつわる事を不快に考える為に死に対して正当な考慮を払わないできました。ただ死について十分に考えるときにのみ私たちは死に対して万全の備えをすることができるのであります。死は無視さえすれば，なくなるというものではありません。肉体の文字通りの復活を含む全ての神の律法に確かな信仰をもつ事によって，私たちは自身に大きな悦びをもたらす事ができます。確かに復活の全ての過程を理解していなければ復活を信じる事はできません。私たちは如何にすれば成功できるか。その一番の手段は永遠の父なる神を信ずる信仰を持つ事です。

疑いもなく云える事は，多くの人々が全く神を低く評価しているという事実です。非常に多くの人々が神を信ぜずほとんどが不明確に信じているだけであり，結局は考える事のできないある神秘的な理解のしようがない実体のない影響力として神を想像しているようです。もし私たちが，聖典が述べるその通りに神を考えたらどんなに助けとなる事でしょうか。聖典には，神は全智全能のお方で，私たちは神の姿に似せて創られたと記されています。神は文字通り私たちの霊の父であり，イエス・キリストは肉に於てその独子であります。神は律法や驚異や秩序や美のみなぎる，無数の世界をお創りになられた御方です。神は単に私たちの霊の父だけでなく，私たちに心からの関心を持って下さっている御方であります。私たちのために永遠の計画をおつくりになって，その恵みを鈍感でしかもしばしば不従順な私たちが理解でき，とり入れる事のできる僅かなものだけに限らなかったのです。私たちが誇りとする知識の全てを以ってしても，私たちは神がお知りになっておられる何万分の一も知り得ないし，また神が私たちのために貯えておられる祝福のごく僅かな部分さえも理解できません。パウロは次のように述べました。「しかし，聖書にあるとおり，『目がまだ見ず，耳がまだ聞かず，人の心に思い浮びもしなかった事を，神はご自分を愛する者たちのために備えられたのである。』（1．コリント2：9）

私たちの弱さをもかえり見ず，どうして神を疑うのでしょうか，どうして神を信じないで無視することができますか。神は有害であること，気まぐれなこと，一時的なことをなさりません。聖典は「神がなさる事は如何なるものでも永遠に続く，」ということを指摘しているにもかかわらず，私たち自身の理性をもかえりみずにしばしば，人生とははかない，苦渋に満ちたものであると考えたりすることがあります。その結果，私たちは永遠の父が，その愛する子

供たちに準備された計画を全然行なわずに済ましているのではないでしょうか。

ある人々は，永遠の生命について考えようともしません。また私たちが肉体と呼び，個性と呼び，感情と呼び，記憶と呼ぶこれらの素晴しい創造物を永遠に奪い取られるかも知れぬと考えています。また私たちがすべて大海に溶け込んで行く無数の小さな雨滴のように個人の本質を失ってしまうのだと考えている人もいます。またこのように尋ね続ける人もいます。「神はどんな仕事をしていると考えればいいのか？」と。神は人に生命を与え，考える心を与え，愛する心を与え，働く手を与えられた。だがこれらの神の御業を時間の経過が価値ないものにしてしまうと考えることができるでしょうか。このような考えは父なる神にとって信じられないまた，全く価値のないものなのです。私たちは経験もない小さな私たちの子供がより賢明でより多くの経験をつんだ両親の忠告を受け入れるように期待します。もしも5才の子供が自分の意のままに行こうとしたら問題が生ずるだろうと思います。学校を休んでしまうか，または健康を害するか，よくないことが予想されます。もし神様に全幅の信頼を寄せるなら文字通りの肉体の復活というとてもすばらしい教えを一生懸命勉強することでしょう。私たちが信仰を強めるなら神のすべての祝福が，それを受けるにふさわしいあなたに与えられるでしょう。

初めに，私たちは数種の復活があると教えられています。正しい者の復活もあり，不義なる者の復活もあり，両者の間には非常に多くの段階があります。この点について，イエスは次のように述べています。

「善をおこなった人々は，生命を受けるためによみがえり，悪をおこなった人々は，さばきを受けるためによみがえって，それぞれ出てくる時が来るであろう。」（ヨハネ５：29）

正しい人も悪い人も，復活します。「なぜなら，アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである。」しかしもし，私たちが正しい道を踏むならば，個人の復活を高めることが可能なのです。

ヘブライ人へ宛てた手紙の中で，パウロは次のように述べています。

「日の栄光があり，月の栄光があり，星の栄光がある。また，この星とあの星との間に，栄光の差がある。死人の復活も，また同様である」（Ｉコリント，15：41～42）

近代において私たちは啓示を通して次のように知らされています。もし私たちが福音の律法に完全に従って生きるならば，私たちは日の栄光の体をもって復活する力を授けられるでしょう。と。

私たちは，肉体が現在のままで本当にすばらしく美しいものと考えていますが，本当はもつと素晴らしいものであります。それをパウロは次のように言っています。

「朽ちるものでまかれ，朽ちないものによみがえり，卑しいものでまかれ，栄光あるものによみがえり，弱いものでまかれ，強いものによみがえり，肉のからだでまかれ，霊のからだだによみがえるのである。」

もし私たちがどうしてもこの復活の力を理解できなければ，神がどのようにして血肉と骨髄，知性と理性，想像力と個性をかね備えた最初の作品である人を創造されたか，その力を考えてごらんなさい。毎日の私たちの生活をみても，弱くはかない人間でさえも，すばらしい創造力があるのに，どうして神が約束されたことが，おできにならないときめつけてしまうのでしょうか。

私たちは非常に多くの人々の見つめる中で行われたイエスの復活の例を知っています。しかもイエスの復活後に多くの人々の復活がありました。

「また墓が開け，眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。そしてイエスの復活ののち，墓から出てきて聖なる都に入り，多くの人々に現れた。」第一の復活は，1900年以上も前に始まり，キリストが福千年の間地球を治め給うために栄光をもっておいでになるときに終るのであります。キリストがおいでになるとき，神に従って生きている人々は，彼にあうために上げられます。（Ⅱテサロニケ４：17）。また，ヨハネ黙示録20：５～６に，

「これが第一の復活である。この第一の復活にあづかる者は，さいわいであり，また聖なる者である。この人たちに対しては，第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり，キリストと共に千年の間，支配する。」義なる者の復活にふさわしくない

者は，福千年後に起こる不義なる者の復活まで，待たねばなりません。

復活に関する信仰の最大の問題は，私たちが先ず，肉体の重要性を理解していないというところにあるようです。人間の肉体が神の最大の奇蹟であるという事実にもかかわらず，その肉体がある種の罰として与えられたと教えられている人々がいます。彼らは獄屋にとらえられており，肉体の死は，霊への歓迎すべき解放であると考えています。しかしながら，もし死ぬべき肉体が必要でないならば，先ずそれが創られるということはあり得なかったでしょう。もし，それが永遠に必要なものでないのなら，復活は決して考えられることもなかったでしょう。肉体が父なる神に必要でないなら，子なる神も決して復活しなかったでしょう。イエスの復活は，一時の気まぐれをただ満足させるためのものではありませんでした。イエスは復活後もその肉体を失いませんでした。それは消え失せもせず，宇宙空間に，ある場所を占めるために神秘的な方法をとったのでもありません。神は，骨肉，人格，感情かたちのない認知できないものではありません。近代の啓示は，神が私たちの父なる御方であり，その像にかたどって私たちが創られたために両親に似ている子供であると教える聖書を証明しております。しかも父と御子とは，この末日において地上に再び現われ給い，御二方がそれぞれの栄光をもった別個の御方であることを知っております。近代の啓示においては，次のように述べています。

「御父は，人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子もまた然り。されど，聖霊は骨肉の体を有ちたまわずして霊の御方なり。もし然らずとせば，聖霊われらの中に住みたもうこと能わじ。」

（教義と聖約 130 ：22）

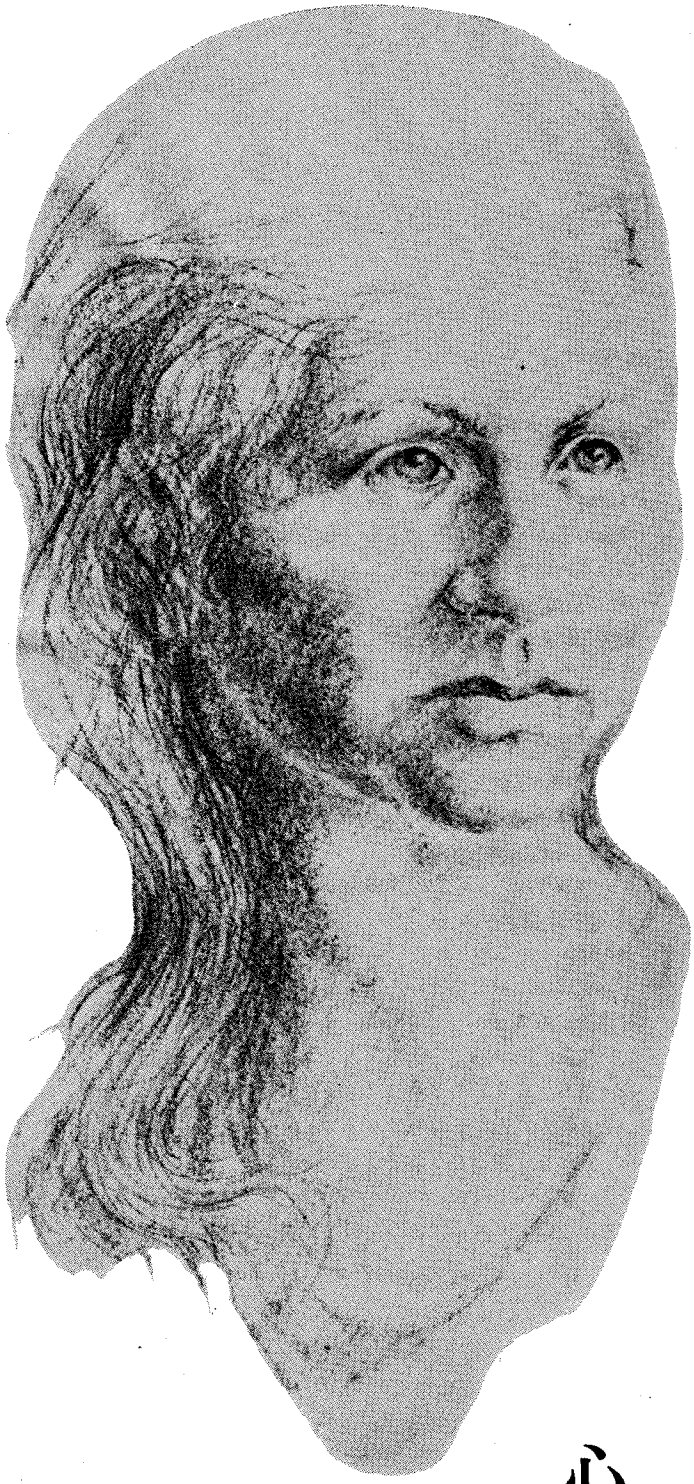
霊だけでは不完全であるにもかかわらず，神御自身からその体を奪いとってしまおうと主張する人々がいます。ある人は父なる神を霊にしてしまおうとし，また単なる影響力にしてしまおうとしたりしています。また，ある人は神を普遍的な原理として説明しています。あなたはどうしたら自分の肉体やその一部を失ったり，単なる影響力になってしまったり，普遍的な原理になってしまったりすることができるでしょうか。ある人は無知のためにと云いわけをして，主の御言葉に反抗していますが，それでも私たちは自分が何かある重大な問題に直面しているという実感をふり捨てるわけにはゆきません。私たちはビタミンを知らず，電力や太陽光線を理解していなくても，それらの恩恵に浴そうと努力をしていますもし神が初めに私たちをお創りになられたとしたら，神が私たちを復活させてくださるという約束を守る力をお持ちになっておられることは，確かなことであります。

かつて，ウェルナー・フォン・ブラウン博士は次のように述べました。

「多くの人々は，科学が宗教的な考えを時代に合わない流行遅れだときめつけているように思っているが，科学とは疑問を持つところにほんとうに驚嘆することがあると私は考えております。例えば，科学は自然界において，極小の分子でさえも跡形なしに消え失せてしまうことはないと，しらせてくれています。自然は，死滅を知らず，知られている限りにおいてそれは変形するのであります。もし神がこの基本原理を，その宇宙の極微のとるに足らない部分に適用したとしたら，そのように人間の霊魂にも適用できるのは，確かなことではありませんか。科学が私に教えてくれるすべての事柄は，絶えず私を教え続けており，死後の霊の存在が継続するという信念を強めてくれております。何故なら，形跡のない消失は，ひとつとしてないからです。

いつの日か私たちは，この偉大な出来事が私たちにとって真実なものとなり，個人の体験となる時と場所とに到達するでしょう。もし私たちが，義なる者の復活の最高の祝福にふさわしい者であったとしたら，その時の私たちの喜びはいかばかりでしょう。ウィリアム・ジェイムスは，かって次のように述べました。

「永遠の生命を受けるにふさわしい人が実在するということが，永遠の生命をもっともよく証明するものである」と。私たちの最も大切な責任は，栄ある日の栄光の復活にあづかるにふさわしくなることであります。そうすれば神はその余のすべてのことの面倒をみて下さるのです。その時清らかなスピリットが，私たちの血管に流れ，私たちは神のようになり，神の国で共に永遠に生きるのであります。神が私たちをそのように祝福して下さいますようイエス・キリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン。



心の中で

アイダ M. バーカン

カレンは前の日ジョディが戸棚の上に置いていったまま，すっかり忘れていた手紙を思い出した。そして部屋にひきこもり一人きりになって，先生からだというその手紙を手にとった。カレンは娘のジョディがそんなにも早く普通の生活に戻れたのかと驚いた。環境によるのかしら？　ジョディは読書をしていても，死に直面した子供の悲しみなどを全く感じさせなかった。あの子はどれ位悲しんでいたのだろう？　カレンは封筒を開いて手紙を読み始めた。

「ウィルソン様，12時半から1時までの間か，放課後，御都合のよい時においでいただきたいと存じます。　メリー　ジャクソン」

「御都合のよい時に」ジャクソン先生は夫のアートが亡くなったことを知っておられて，急を要する相談でなければ急ごうとなさらないのでしょう。算数の点がまた悪かったのかしら。彼女は夫が問題のある時にはいつも助けになってくれたことを思い出した。カレンはその日学校へ行こうと思った。ジョディの勉強をみてあげなくてはならないのならそうしよう。彼女はジョディにとって父と母の両方の役目を果たさなくてはならなかった。

カレンは思いきってジョディに会おうと決めた。子供は感じやすく，時にはびっくりするほどいろいろなことを覚えているものなので，悲しいこの時期に不幸な思い出がこれ以上重ならないようにと，今までカレンはおもしろい話やおしゃべりなどの刺激を与えないでジョディをそっとしておいたのだった。ジョディは，父が死んだ時からずっと引きこもりがちで，食事も黙ってとり，食べおわるとすぐに学校や自分の部屋へ行くという毎日だった。以前のような生活を，今度は二人で始めなくてはならない。そのために勤めようとカレンは決心した。ジョディがいるのをどんなに感謝したことだろう。ジョディ一人では淋しいだろうと考えてもう一人の子を養子にもらうはずだったが，病弱なアートにとってこれ以上家族がふえるのは無理なことだった。カレンは悲しみのうちにも，思いやりと信頼に満ちた暖いアートと娘ジョディのきず

なを思い浮かべて，力なくほほえんだ。

それから二時間ほど後，学校へ向かう途中で彼女は夫とジョディがよく宿題をいつしょにやっていたことを思い出した。高校の先生だったアートは子供たちに深い愛を持ち，その人生をほとんど彼らと共に費した。ジョディにとって，アートは父であり師であり監督であり友人であった。カレンは父の死によって穴のあいたジョディの心を満たしてやれそうに思えなかった。ジャクソン先生はきっと

ジョディが勉強を満足にしていないとおっしゃるに違いないとカレンは思った。

しかしジャクソン先生はジョディの勉強については何も言わず額にしわを寄せながらこう言った。

「お子さまがなぜあのようにみんなから離れているのか不思議なのです。」

「あの子にそうさせるのではありませんの？」

カレンはこう言って感情的になってしまつた自分を後悔した。先生は親しみのあるまなざしでカレンをみつめた。

「いいえ，そうではありません，。お子さまは始めて死に接したのでしよう。私は同じような経験をした子供たちを何人か見てきましたけれど，ジョディのような子供は始めてです。何週間もこの状態なのです。小さな子供は人生の悲しみに抵抗することができないものですわ。一人の世界にとじこもってくよくよしているより，外に出て友だちと遊んだ方がよいでしよう。」

「でもあの子は父親にとてもよくなついていたのです。

カレンはひきこもってばかりいるジョディのことを気にしていると思われたくない気持もあってそう心配はしていないといった様子をしながらも，ジョディの振舞いの普通でないことを認めた。片親を失った子供は残った片親にいっそう近づくものだと考えられないだろうか。

手袋をとったりはめたりしながらカレンは静かに言った。「私たちは娘ととてもうまく行っていましたわ。娘は養女なのです。時には養子の方が生みの子供よりなついてかわいくなることもございます。そうはお思いになりません？」

「お子さまを愛しておいでになることはよくわかりますわ。彼女のゆううつな気持を直して下さるようにお願いしたいのです。」

「ゆううつな気持」この言葉は家に帰る時もずっとカレンの心にわだかまりとなって残っていた。こんな言い方が，いつも元気で愉快で楽しそうな娘にあてはまるなんて信じられない。信じられないと言えば，ジョディがこの何週間，母親から遠ざかっていることもそうだった。カレン自身が悲しみにまぎれてそのことに気づかなかったのだ。もうすんだことは気にすまい。先生は何でも知っているなんて，いったい誰が言った言葉だろう。

しかし何とかしなければならなかった。直接，「ジョディ，どうして私を避けるの。」と聞いてみようかしら。始めから隠すようなことはしなかったのでジョディは自分が養女であることを知っている。二人の養子がある友だちのハッティからなどは特に反対されても，カレンはそのことをこだわりなく率直にジョディに話したのだった。ハッティが最近冷たくなったのを考えると彼女の心は痛んだが，今はそのことを考えまいと思った。ジョディに，「どうしてハッティおばさんはもういらっしゃらないの？」とたずねられてカレンは引っ越したと答えたのだが，わずか6丁ほど移ったところで引っ越しなどとは言えない。

カレンはハッティの態度が理解できなかった。

「なぜ養女だということをはっきり言ったらいけないのかしら。養子を持つ私たちみんなの問題なのに」

そう言うカレンにハッティは反対して言った。

「そんなの問題じゃないわ。もちろん子供には打ち明けなくてはならないけれど，いつでもそうするべきではないと思うの。あなたはこれをデリケートな問題として扱っているけれど，いつもくどくどと言わなくていいでしょう。私は子供たちに自分が養子だという

ことを思い出させようなんてしないわ。」

その時二人は目と目をあわせて語ろうとはしなかった。でもそれが友情にひびの入った理由だろうか？　アートの死後どんなにハッティの訪問を期待していたことだろう。カレンが望めばまた以前のように親しくなれたのだが，彼女はそうできなかった。そして何週間過ぎてもハッティは再び訪れなかった。

カレンはジョディとはじめて養子のことについて話しあった時がいつであったか覚えていないが，彼女が6才になったある日，夕食の時にこうたずねられたのを思い出した。

「となりのノークロスおばさん，赤ちゃんがおなかにいるの？」

「そうですよ。」

「あたしはママのおなかにいたの？」

「いいえ。ジョディ，あなたを養女にしたの。知っているでしょう。」

「どうして私はママのおなかにいなかったの？」理由があってママは赤ちゃんをおなかに持てなかったの。お庭に人参やトマトや豆を植えた時のことおぼえているでしょう。そのなかに大きくなるのもあればそうでないのもあったでしょう。赤ちゃんもママのおなかで大きくなることもあればそうでないこともあるのよ。あなたがママのおなかで大きくなれないので，ほら，いつか話した所にでかけたの。そこにはお母さんがおなかの中で育てることのできない赤ちゃんがいるのよ。ママはその中から一番きれいで一番かわいらしい赤ちゃんを連れてきたの。それがあなたよ。」

「ママ，もっとクッキーたべたいな。」

人生には時々思い出深い出来事には直接関係のない記憶が思い出されるものだと，カレンはしみじみ考えた。愛犬のスポティが生後二週間しかたたない仔犬4匹を残して車にひかれて死んだ日のことをどうして思い出したのだろう。

「仔犬ちゃんたち，どうなるの？」

ジョディは悲しみながら泣いて叫んだのだった。

「そうね。仔犬をかわいがってくれる家がみつかるまで，よく面倒を見て下さるところに連れて行くわね。」

「私みたいね。私も生んだお母さん死んだのね。施設にいた赤ちゃんたちのお母さんはみんなスポティのように死んでしまったのね。」

「そういうこともあるけれど，いつもそうではないのよ。お母さんが病気で赤ちゃんの世話ができなかったり，お父さんがいなかったりする時もあるの。赤ちょんにはかわいがってくれたり世話をしてくれたりするお父さんとお母さんがいなくてはならないのよ。お父さんがいて，お母さんがいて，子供がいる。それが家族なの。」

カレンは鍵をあけて部屋に入った。今日は職さがしに行かない方がいいと思ったのは，つらい気持で心がふさがれていたからだった。彼女はアートの部屋へ行って衣類を処理しなければならなかった。いつもそうしようと思いながらも夫の部屋に行けないでいたのだ。今日ジョディが学校へ行ったあとでしよう。ジョディには悲しんでいる様子を見せまい。ジョディの前では落着いて明るくしていても彼女は夜，枕に顔をうずめて泣くのだった。

カレンはアートの机にそれまで気づかなかったおくやみ状のあるのをみつけた。ひとつの学校で10年間も教え多くの生徒と接触したというだけでなくアートは生徒たちに心からの愛をもって接していたために，彼らとの友情は尽きないものがあった。カレンはそれを手にとったが文字を読むよりもまず娘の悲しみに沈む顔が思い浮んだ。どうしたらジョデイの悲しみを慰めることができるだろう。そんなことを考えぼんやり窓の外を見ていたカレンは隣りのノークロス夫人が大きなおなかをかかえながら4才になる男の子の方へ歩いて行くのを見た。彼女はなんとなく机から離れてノークロス夫人の方へ歩いて行った。そしてためらいながらも問題をかいつまんで述べ，その日の午後いっしょにジョディを家から連れ出す計画について話しあった。

「うまくゆくといいですわね」

「助けて下さってありがとうございます。」

カレンは家へもどり窓のそばに立って通りを走って来たジョディがノークロス夫人に呼びとめられるのを見ていた。二人は何か言葉を交していたがやがてジョディはほほえみながら家へ帰ってきた。

「ママ，ノークロスおばさんが私にポールのめんどうをみてほしいんですって，おばさんつかれて，横になりたいそうよ。行っていい？」

「もちろんいいですとも。でもその前に牛乳を飲んでいらっしゃい。」

カレンはテーブルにすわったジョディの表情をうかがったが，彼女の顔は生き生きした様子をなくし始め，この一ケ月間そうであったように，またゆううつで悲しそうな表情になり始めた。

「女の人って赤ちゃんを生む時，あんな風につかれるの？」

「たいていはそうよ。」

「さあ，もっと質問をして。何か言って，何でも！　私を避けないで，ジョディ！」

「ノークロスおばさんがポールを生んだ時，ママが赤ちゃんはおなかにいるって言ったのおぼえてるわ。」

「そうよ。そこで赤ちゃんが大きくなって行くのよ。」

ジョディは静かに立ちあがって一言もいわず振り向きもしないで部屋を出ていった。カレンはまったく当惑しておろおろしながらその後姿を見送った。いったいあの子に何が起こったのかしら。私を避けている！　私を信頼してくれない！

カレンは暗くならないうちにおくやみ状の返事を書くためアートの机に戻った。夕食を準備する時間だった。彼女は二切れの肉をブロイラーに入れ台所のテーブルに二人の食事を用意した。

そしてジョディの好きな木のボウルにサラダをもりつけて，彼女の帰りを待ちながら窓の外をながめていた。何をするというのでもなしに，彼女は棚からインスタントマッシュポテトの袋をとりだしたが，やがてそれを棚へもどして，隣りの家へ行こうと思い台所を出たが取り乱した様子のままで行ってはいけないと彼女はゆっくりした足どりで隣家へ続く路を歩いていった。カレンはドアをノックして台所へ入った。ノークロス夫人は椅子に腰をかけながら息子に本を読んできかせていた。

「ジョディいます？」

「あなたとご一緒ではなかったの。30分程前に出ましたけれど。」

カレンは胸さわぎを感じた。彼女は家へ戻ろうとしかけ途中でまた引き返して，ノークロス夫人に言った。

「あの子はいつも言ってから出かけるんです。」

「どこかご近所にでもいらっしゃるのではないかしら。」

ノークロス夫人はつとめて明るく言った。

「どうして近所をおたずねにならないの。私でもよかったら行きましょうか。」

「ありがとう。大丈夫私行きますわ。」

カレンは近所の家をたずねて歩き通りをはさんで八軒をあたってみたがそれも徒労におわった。警察に頼まなくてはと思いながら重い足をひきずって家の前まで来ると，ノークロス夫人が心配そうに待っていた。

「いませんでしたわ。」

力なくそう言って家へ入ろうとした時電話の音が聞こえた。カレンは急いで電話口にかけよった。

「カレン？私，ハッティよ。」

カレンはハッティからの電話をうけてうれしかった。

「ジョディが来ているんですよ。」

カレンの膝はガクガクと震えたが，つとめて平静をよそおった。

「どこへ行ったのか，まったく見当がつかなかったのです。すぐ連れに行きますわ。」

「もしよろしかったら私が連れて行きます。トムがいるのでそちらへ行くのに差しつかえないの。」

カレンは受話器を置き，ほっとして椅子に腰をおろした。それまで根をはっていたような緊張がほぐれ，静かな暗い家の中で腰をおろしながら，彼女は考えをまとめようとしたが，なぜジョディがハッティのところへ行ったのか，どう考えても理解できなかった。静かなノックの音がしてドアをあけると，ノークロス夫人が立っていた。

「お宅がまだ暗いままなのでどうなさったのかと……。」

「ジョディは私の友人の家にいましたの。ほら古い友だちのハッテイ・スコットさん。」

「スコットさん？　ああ，電話帳で見つけようとして，ジョディが私にたずねていたわ。ブリッグズ通りはどこにあるか知りたがっていたのよ。6丁しか離れていないことを知らなかったんだわ。」

「スコットさんは最近あちらに引越しなさったのでまだお宅へは伺っていなかったの。」

カレンはノークロス夫人の方へ向く玄関の灯をつけて，暗やみの中で一人になれたのをうれしく思いながら，混乱した心にはっきりした形を編みあげようと，捕えどころのない心の糸を模索していた。6丁しか離れていないからジョディたちはもうすぐ帰って来る。そうしたらカレンは事情をすっかり知るに違いない。彼女の心はいらだちと不安でいっぱいだった。玄関の戸をノックする前に足音をきいたカレンは，外に出た。灯の下で彼女は声をあげて泣くジョディと目をうるませているハッティとを見た。

「ジョディ！　とっても心配していたのよ。」

カレンはジョディをしっかりと抱いた。ハッティは落着かない声で言った。

「カレン，ジョディは軽く食事をすませたの。部屋に行って服を脱がせた方がよくはない？」

「それがいいわ，新しいすてきな寝間着に着かえて，ハッティおばさんに見てもらいましょうね」

ジョディを部屋に送ってハッティのところへ再びもどって来ると，カレンは目に非難の色を浮かべて言った。

「いったい，どうしたんでしょう？」

「私，あなたにどう説明したらよいかしら。ジョディが玄関に立って『逃げてきたの。ここにおいてちょうだい。』って言ったの。」

「えっ，何ですって？」

「私も驚きましたわ。ジョディは，おばさんは二人も養子がいるからもう一人ぐらいいいでしょうって言うのよ。」

「わからないわ。ちっともわからない。どうして……」

「私，今になってわかるの。ジョディがあなたに話すわ。私のいない方がよくお話しできるでしょう。ところで明日お昼の食事にいらっしゃらない？　あら，もうずいぶんお邪魔しちやって……」

カレンはジョディの部屋へ急いだ。新しい寝間着のリボンをもてあそびながら，ジョディはベッドの端に腰をおろしていた。

カレンはジョディの隣りに腰をかけ，つとめてやさしく言った。

「ジョディ，どうして家から逃げだしたの？」

「だって施設にもどるのはいやだつたの。ママは私を返さないわね？　ハッティおばさんは，ママはそんなことしないって言ったんだけど……。」

目のあたりをやさしくなでながらカレンは言った。

「ママがどうしてそんなことをするかしら？」

「だってママは私を生んだお母さんが，私をあづけたのはお父さんがいないためだって言ったでしょう。ジョディのパパは死んだから私はママのそばにはいられないわ。私，ハッティおばさんのところでくらせたらって考えたの。だっておばさんのところ二人養子がいるでしょう。そしたらママにいつでもあえるわ。」

「ジョディ！」

カレンはジョディをきつく抱きしめた。

「そんなことを考えていたのね。」

カレンは目に涙をうかべた。しかしジョディに必要なのは泣くことでなく，はっきりとすべてを理解させることだった。

「あなたにはパパがいたでしょう。10年間あなたにはお父さんがいたのよ。小さな赤ちゃんだった時，こんなちっちゃな時にはあなたを育てるお父さんが必要よ。パパはあなたをこんなにかわいらしく育ててくれたの。他のどんなお父さんよりもっと立派に。ママはこんなにまで育てて下さったパパをあなたがいつも忘れないということを知っているわ。ジョディはお家を逃げだすの？　ママは今までよりもっともっとあなたが必要なのよ。私たちパパを亡くして，もうママとジョディは離れられないわ。あなたがいなくなったらママは何のために生きて行くの？」

カレンは小さな二つの手が両ほほに置かれるのを感じ，自分の目をまばたきもせずにみつめるジョディの大きな青い瞳を見た。

「あたしがママのおなかで大きくならなくてもママは私のこと好き？」

「そうですとも，ジョディ。大好きよ。あなたはママのおなかで大きくなったのではない。ママの心の中で大きくなったのよ。ママの心の中の深いところで大きくなったの。ママは世界中の誰よりもあなたを好きよ。」

突然ジョディはすすり泣き始めたが激しい感情がせきを切ってあふれた。

「ママ！」

カレンは，ジョディを両腕に抱きやさしくゆすりながら涙の流れるのをぬぐおうともせずつぶやいていた。

「かわいいジョディ！　あなたはママの一番大切なたからものよ。」

私たちの目標

管理監督
ジョン H・ヴアンデンバーク

ウイリアム・ジョージ・ジョルダンは，次のように述べている。

「人は二人の創造者を持つ。一人は神であり，もう一人は自分自身である。第一の創造者である神は人に人生の道を備えて，自らの望む人生を選ぶよう律法と原則を与えたもうた。第二の創造者は自分自身である。人は自分では気づかないが，実はすばらしい力を持っている。それは人が自分のなりたい人間になり得るということである。」

あなたや私がこの世にあってよりよい自分をめざす時，ではどんな人間に，という問いが生まれる。自分はどのような人生を送ったらよいのか？この最も大切な根本の問題を考えるとき，私たちはどうしても人生の目標と目的に焦点をしぼらなくてはならない。目標は成功の基いである。目標がなければ，人生は逆流の中にただよう筏のようなものになってしまう。かってある人がこう述べた。

もし「何処に行くのかわからないならば，どの道を行くかは問題でない」。このことは「私の知ったことではない」という態度を持つ若い人たちにとってきわめて大切な警告であ

る。若い人たち特に神権をもつ人たちは，価値ある目標を達成するために努力しなくてはならない。目標は進むべき方向と目的をはっきりさせるものである。

もし進むべき方向がないなら，考えや行ないは意味のない徒労に終わってしまう。船乗りが，北極星で方向を決めることができると知った時，それはどんなに世界の探険に偉大な貢献をしたことだろう。かっては底知れぬ敵であった海が，星が方向を指し示すという知識によって今では有益な交通の手段となっている。

中国の歴史において黄帝（紀元前2,634年）の治世64年目に，黄帝は涿鹿（タクロク）平原に住む一人の豈尤（シュー）を攻撃した。黄帝は，まもなく敵がおこした煙霧にまかれたが南を指す戦車（Tchi-nan）を持っていたために，方角を見分けることができた。ひとたび軍隊が行く手を見分けるや，彼らは敵軍の大将（Tchi-ysou）を捕えて，とりこにすることができたという。

人生の，目標や方向を定めないために多くの人々は「煙霧」の中であてもなくさまよっている。

私たちが目標について考えるとき，目標には二つの重要なかたちがあるということを心にとめなけたばならない。ひとつは段階的な目標であり，今ひとつは究極的な目標である。これらが両方とも大切なことを示すために，私たちの目標を家を建てることにたとえてみよう。家を建てようという目標をたてても，いくつかの段階的な目標がなければ，決して家は完成しない。つまり「今日は地下室を掘ろう」「明日は基礎固めをしよう」というように，その時々の目標が究極的目標の達成されるまで，一つ一つ積み重ねられて行くのである。

アロン神権者は，究極的な目標の一つとして伝道に出ることを考えるだろう。これをたとえとしてみよう。まず，このために日常生活で準備しなければならないことがある。神権を尊ぶこと，聖典を勉強すること，清い生活をすることなどがその段階的な目標になる。

将来の目的が，段階的目標の積み重ねによってのみ達せられることを知るのは，大切である。日々のちっぽけな満足を得ようとして究極的な目標を犠牲にしてはならないことを心にとめなさい。ソロモンは，偉大な賢明な王であったが，究極的な目標を肉欲という低級な目標にひき換えてしまった。エサウも飢えを満たすという一時的な目標のために長い目でみた目的やそのためのよい機会を棄ててしまった。

究極的な目標も段階的な目標も，幸福な人生には大切であるが，どちらが最大の満足をもたらすかを考えてみなくてはならない。

このことの答えは，福音のもつ重要な一面を明らかにしている。福音は，実に私たちが最大の満足と成功を得ることを目標として主が準備したもうた計画なのである。もちろん，人生最大の究極的な目標は，日の栄光での昇栄である。これは，ある面で私たちの理解できないことである。昇栄の偉業を達成するための段階的な目標は福音の中に明らかに示されている。これらのいわば中間的な目標には，バプテスマ，聖霊の賜を受けること。メルケゼデク神権に聖任されること，神殿結婚をすることなどがある。これらの目標は，価値ある人間になること，神権会の仕事を完全に行うこと，聖典を勉強することなど，きわめて具体的日常の目標を私たちに要求している。

福音は，私たちの人生を成功に導く目標を備えているがそれは，おのおのが自ら，目標達成のために働かなければ無益なものになってしまう。私たちは，弱々しく「やってみます」と言うのではなくヨブが苦しみのさなかに示したように，力強いことばで，「わたしは知る。わたしをあがなう者は生きておられる。後の日に必らず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ぼされたのち，わたしは肉にあって神を見るであろう」（ヨブ記19章25節～26節）と，確信をもって叫ばねばならない。今日の若い人々は，福音の原則に従って生活するために，いっそう強い実行力が必要とされる。

マッケイ大管長は，今の時代について，またこの時代に住む人々が正しい目標に向かって進まなくてはならないことについて，次のように述べておられる。

「これまでになかったような悪の力が，現在根強くはびこっているようであります。私たちは，危険な時代に生きており，多くの人々が，錨を失った船のようにあちらこちらをただよっており，『だまし惑わす策略により，人々の悪巧みによって起る様々な教えの風に吹きまわされたり』（エペソ人への手紙4章14節）しております。このことは多くの人々の承知していることであります。サタンとその軍勢は，霊性を守ろうとする私たちの高い理想や神聖な標準を攻撃し，ある兄弟が最近述べたように，すでに世の多くの人々の高い標準を破壊し，私たちをとりまきながら，悪をそそのかしたり誘惑をしています。そのようにサタンは私たちの群れへ割りこもうとしてこの世に罪をはびこらせ，それを私たちの中にも及ぼそうとたくらんでいます。私たちの周囲では，高い標準は失われ地に落ちて，低いものに置き換えられてしまっています。努力はわずかに見られます。しかし，標準を高めるまでにはいたっていないのであります」（『インプルーブメント・エラ』）1967年6月号23頁）。

若い諸君，特に神権を付与されているあたたがたは，パウロが述べたように，高遠で価値ある目標をたてはじめなければならない。「兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち，後のものを忘れ，前のものに向かってからだを伸ばしつつ，目標を目ざして走り，キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである」

（ピリピ人への手紙3章13節～14節）

目標

家族と復活

ブリガム・ヤング大学
宗教学助教授
ロイ　W・ドクシイ

最も偉大な出来事とは，その及ぼす影響が極めて大きいものをいうのである。国家や個人にとって，復活ほど重要な出来事は，今後も起らないにちがいない。また復活ほど私たちが充分に備えをしなければならないことも，他にない。「人類が現世に在るのは幸福を得んため」であり，「幸福がわれわれの存在目的」ではあるが，この世では完き喜びは得られないのである。

神の息子や娘にとって最も大きな喜びは復活してからもたらされるのである。この偉大な真理は啓示を通して予言者ジョセフ・スミスにあらわされた。

「人は霊なり。元素は永遠なるものにして分つ能わざるように結合したる霊と元素とは完き喜びを受く。この両つのもの，相離るる時人は完き喜びを受くることを得ず。」

教義と聖約93：33～34

神の子供たちが，神の与えたもう目的を充分に理解するために，復活という偉大な真理をどんなに高く評価してもしすぎることはない。

復活に関して末日聖徒がもっている貴重な知識の重大性や感謝の念を，ブリガム・ヤングは次のような言葉でよくあらわしている。

「復活の真の知識と正しい理解は神の聖徒らにとって，この上もない慰めの源であり，喜びの源である。」

（「ブリガム・ヤング大管長の教え」19頁）

人類が復活するという考えとその確かなことは予言者ジョセフ・スミスに知らされた。英国にいるロレンゾ　D・バーンズの死を知った時彼は次のように述べた。

「私が何を望んでいるかを語ろう。もしかりに明日，私が墓石の下に横たわらねばならなくなったとしたら，復活の朝には父の手を握りしめ，叫ばしめよ“わが父よ”と。父はおおせられるであろう，“わが子よ，わが子よ”と。その時，岩は引裂かれ私たちは墓より出るのである。」

私たちはこれらのことを深く考えても良いのだろうか？そうである。もしわれわれが，いかに生き，いかに死すかを学ぶなら……私がここでこの興味深い問題に関し，私が見た示現を述べるなら，あなた方は奇妙に思われるかも知れない。キリストにあって死んだ者は，復活する時には彼らがかつてあった状態，あるいは予期していたすばらしい状態にはいるようになるであろう。

私は示現を通して，墓から立ち上がる人々があたかも朝，目覚めて床からむっくり起きあがる人のように見えた。彼らは互に手を取り合い，「父よ，息子よ，母よ，娘よ，兄弟よ，姉妹よ」と叫んでいた。その叫び声が墓から立ち上る人に呼びかける時，もし私が父の側にいたとしたら，私の心はどんなに喜びで満たされるだろうか。私の父母，兄弟に会い，彼らが自分の側にいるのを知って私は彼らと抱き合うであろう。」

（D．H．C．教会教義歴史　5巻　361～362頁）

この物語は，末日聖徒の母親たちが復活について子供たちに教えるようすすめていると思われる。それは家族をしっかりと結び固める愛情のきずなにも関連しているからである。末日聖徒は生ける予言者や近代の聖典を通して与えられる神の啓示によって豊かに祝福されている。古代および近代の予言者たちの証詞は，復活のような根本的な教義に関する理解と証詞を強めてくれる豊富な資料となっている。予言者ジョセフ・スミスの言葉には，私たちの基本的な教義を構成する証詞がもられている。

「われわれの宗教の基本的な教義は，イエス・キリストが死にたまい埋葬され，そして三日目によみがえり，天に上げられたもうたということに関する使徒や予言者たちの証詞である。われわれの宗教に係るその他のあらゆることばはこの出来事に附随するものにすぎない。しかしこれらに関連して更にわれわれは，霊の賜，信仰の力神の意志による霊的な賜を享受すること，イスラエル家の回復されること，真理が最終的に勝利をおさめることなどを信じているのである。」

（D．H．C．　3巻　30頁）

「使徒や予言者の証詞」を通して，子供たちを導く末日聖徒の母親にとって関心と益になるもう一つの事柄がある。それはイエス・キリストの神聖な使命についての予言であり，その一部として考えられねばならない復活のことである。

ヤコブは「あなたたちはキリストにある復活の力でよみがえることができる」（ヤコブ書4：11）という主の贖いによって，キリストと共にありたいと願った。そして永遠の計画を予言によって示している。

「ごらん，私の兄弟たちよ，予言する者はよろしく人が解るように予言をせよ。「みたま」は真実を話して偽りたもうことがない。それであるから，みたまは現在の事をありのままに示し，未来の事

もまたありのままに示したもう。それであるから，これらのことは私たち自身を救うためにはっきりと私たちに示されている。しかしごらん，これらのことを証明する者は私たちだけではない。神はまた昔の予言者たちにもこれを示したもうた。」

（ヤコブ書　4：13）

予見により神はイエス降誕数世紀前に，イエスが復活するということを知らすため，この神聖な召しに予言者を召し，霊感を与えたもうたのである。（モーサヤ書13：33〜35参照）

あらゆる神権時代の予言者は，死が永遠に駆逐され，墓がもはや勝利を維持しえない時が来ることを知っていた。

このことについての旧約聖書中の最も明白な予言の一つはイザヤ書の26章19節であろう。

「あなたの死者は生き，彼らのなきがらは起きる。ちりに伏す者よ，さめて喜びうたえ。あなたの露は光の露であって，それを亡霊の国の上に降らされるからである。」

（イザヤ書　26：19）

旧約聖書中の他の予言者たちも，イスラエル民族とすべての人類の希望として，来るべき復活について述べている。末日聖徒はヨブの予言を思い出すであろう。（ヨブ記 19：25〜27参照）

ヨブは墓から現われる出来事を目のあたりにし，エゼキエルは骨と肉が文字通り結合することを述べている。（エゼキエル書37：1〜14参照）

またダニエルは義なる者も不義なる者も，復活した生命をもって現われることを証詞している。

モルモン経の予言者たちも復活に関する予言を記録している。

アビナダイ　（モーサヤ書　16：7〜10）

アミュレク　（アルマ書　11：14〜44）

ヤコブ　（第二ニーファイ　9：6〜8　11〜13）

アルマ　（アルマ書　40：21〜23）

レーマン人のサムエル（ヒラマン書　14：14〜16）

これらの人々はイエスの贖いにより，すべての人々が復活するということ，そしてその体は二度と分離しないということを指摘している。

復活に関する多くの予言が現在成就されているということは，人ではなく神がこの世を統治されたもうているということを証明している。聖典を信じている人々は神の約束が必ず成就するという信念をもっているが，それは神が「使徒や予言者たち」に確かにその約束をなさったからである。

予言者ジョセフ・スミスによって明らかにされた教義で末日聖徒の母親にとって最も美しく満足すべき教義の一つは，永遠に家族の関係が続くということである。末日聖徒は，永遠進歩におけるこの次の段階は，イエス・キリストが行かれた霊界であり（第1ペテロ3：18〜20）人間の霊はすべてそこに行くということを理解している。（アルマ書40：11〜14）霊界は義なる者にも不義なる者にも進歩する機会が与えられるところである。死んだ子供の霊も，相当の年になって死んだ大人の霊と同じようにこの霊界へ行くのである。両者とも，この世を去った時の肉体の大きさには関係なく，型としては大人なのである。（「福音の教義」6版455頁）

この世を去った子供たちに関するこの事実は，幾人かの末日聖徒のお母さんたちのもつ，霊界においても子供たちを，養育するという信念を認めていない。予言者ジョセフ・スミスはこのことを，復活の時成就されると教えており，ジョセフ・F・スミス大管長がそれを次のように述べている。

子供をなくし，子供を成人にまで育てあげる特権，喜び，満足を享受していない母親は復活ののち，その子供が霊の完全な状態に成長している様子を見，この世でもたらされるものよりは，はるかに多くの喜びと満足とを得るにちがいない。

この点に於ては，予言者ジョセフ・スミスの言葉を引用することが適当であろう。

「あなたが失ったすべては復活の時に元通りになるだろう。もしあなたが忠実であれば……全能者の啓示により，私はそれを見た。」

この教えと一貫して，ジョセフ・スミスは次のような真理を明らかにしている。すなわち，この世に住む人の姿，形がそれぞれ違うように，復活体もまた違うのである。しかし，老いも若きも栄光を受けることは確かである。

あなた自身の子供を自分の子供として受け入れるために，また公国に昇るために，あなたは一つの約束すなわちある儀式と祝福を受けなければならないのである。そうでないと天使となる。彼らは死んだ時と同じ状態で復活しなければならない。私たちは日の栄光で同じ栄光と美しさに満たされた子供たちを喜んで迎えることができるのである。彼らは外見的には様々であるが，同じ栄光を受けているため同じ栄光と輝きをもつのである。白髪の老人でさえも輝きと美しさに喜ぶのである。この光景のすばらしさはだれも説明しえないであろう。

復活する時，私たちの肉体の欠陥はとり去られ完全な身体を得るだろうというのが，アルマの証詞であった。これは，現代の指導者たちによってもはっきりと述べられている。

「霊は再び体に返り，体は再び霊に返り，手足も骨の関節もみな元の自然の完全な身体のものに返り，髪の毛一筋もなくならず，身

体のどの部分もみな自然な完全な形に復るのである。」
（アルマ書　40：23）

復活したイエスの贖いの力を証詞して，アミュレクは次のように述べた。それは，復活によって，私たちの霊と肉とが永遠に結合されるという真理を明らかにしている。

「世には肉体の死と名づける死があるが，キリストの死によって肉体の死の縄目が解かれあらゆる人がこの肉体の死から復活することができる。ここに於いて霊と体とは再び合して完全な形となり，手足も骨の関節も私たちが今持っている本来の形に返り，私たちが今持っているような知識を保ち，明らかに自分が持っている一切の罪を思いめぐらしてそのまま神の御前に引き出されるのである。この復活はあらゆる人が全部受けるのであって，老若男女の区別なく悪人と善人とを問わず奴隷と自由人とのへだてなく，一すじの髪の毛さえも失われずに，総身の何れの部分もあたかも今の世にあるようになり，完全の形にかえるのである。それから後で，その行いの善し悪しに応じて裁判を受けるため，一つの永遠の神会を成すお方すなわち御子なるキリストと父なる神と聖霊との法廷に召される。今私は肉体の死と肉体の復活とについてあなたたちに話したが，この死ななくてはならない肉体は不死不滅の体となって死からよみがえる。すなわち第一の死から復活して後に永遠の生命を受けるのである。それであるから，人はもう死ぬはずがない。人の霊は体と合していつまでも再び離れない。そしてこのように相合したものはみな霊性体となって不滅となり再び朽ちることがないのである」と言った。
（アルマ書　11：42～45）

予言者の証詞をよく考えてみる時，私たちはこの世の生活いかんによって祝福を受けるか，あるいは罪の宣告を受けるということがよく認識できるのである。

主は義の律法に忠実であるならば日の栄光の復活を受けるだろうと約束された。

「日の栄の霊の者たちも，肉体たりしと同じ体を受くべくすなわち汝らは汝らの体を受けて，汝らの光栄は汝らの体を生かしたる光栄と同じからん。」　（教義と聖約88：28）

復活を通して得る体は私たち自身のものとなり他人のものとはならない。両親が健康や道徳上の純潔の律法を守るよう子供たちに教えることは大切なことである。

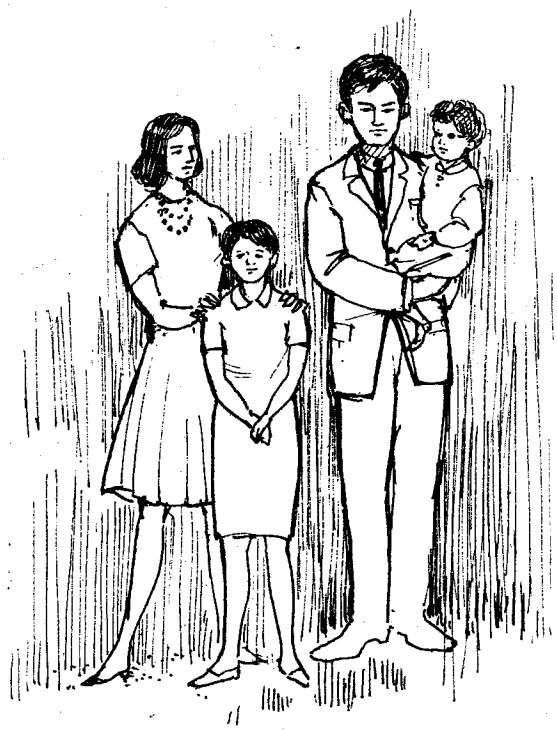
復活の知識とそれに関するもろもろの知識をもっている末日聖徒は何と幸せなことだろう。

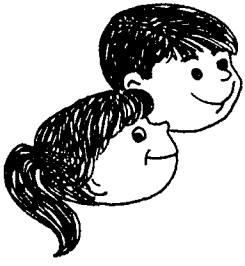
福音が回復され，復活の現実性を知った私たちがそれらを子供たちにも教えることができるのは何と祝福されることだろう。モロナイ，バプテスマのヨハネ，エライジャ，モーセその他の予言者たちは，信じて従うすべての人々に永遠の救いのための栄光と権能，特権，鍵と祝福を携えてこの世に復活体をもって現われた。その一人一人はジョセフ・スミスとオリヴァー・カウドリーに現われ，肉体の復活が真実であることを明白にした。

「偉大な出来事とは，その及ぼす影響が極めて大きいものをいうのである。」

イエス・キリストの贖いによってもたらされた復活は，この世にかつて生きた者，今生きている者，これから生きる者すべてに及んでいる。すべての人々は肉体の死に打ち勝ち復活するのである。例外はひとつもない。
（使徒行伝　24：15，黙示録　20：13，アルマ書12：16～18参照）

「第一の復活に与れるよう準備をすることほど大切なことはない。」人が受ける復活体は，この世で選んだ律法によって定められる。（教義と聖約　88：20～32）「よりよい復活」もある。（ヘブル書　11：35）人々は復活すると復活体をもってそれぞれの栄光の王国を受けつぐが，主はそれらを日の栄光，月の栄光，星の栄光と明確に説明しておられる。日の栄光にも誡命を完全に守ったかどうかによって相違がある。日の栄光を受けるか否かは，イエス・キリストの福音に忠実か否かによる。神のようになることができるかどうかはイエス・キリストの福音に完全に忠実であるかどうかによるのである。（教義と聖約　131：1～4，132：28～33，93：26～28，130：20～21）





聖徒の道

1968年4月号

こどものため

くつの中から出た「たからもの」

（ノルウェーにあった本当のお話し）

ジョンのくつはもうくつやさんに持って行ってなおさなければ，はけないようになってしまいました。ジョンはお母さんと2歳になる弟のオズボーンといっしょにスティーン丘という所に住んでいました。ジョンはその丘でかけっこをするのでくつがすっかりすり切れてしまったのです。お父さんがなくなってから，みんなはノルウェーの海岸に一番遠いフローヤ島から，トロントハイムという町の小さなアパートにひっこして来ました。2人のこどもとお母さんは，時々古く美しいその町からフイヨルド（ジグザグにまがっていりくんだわん）や港をながめていました。

ジョンのボロボロのくつをはじめて見せた時お母さんはためいきをついて，この町

のくつやさんはしらないけれどよい店を見つけなくてはならないわねと言いました。

2，3日たって，ジョンのくつをもってくつやさんの男の子がやってきました。その男の子はくつをジョンにわたしながら「これぼくのお父さんがなおしたんだよ」と言いました。ジョンはさっそくそのくつをはこうとしましたが，先の方に何かがつまっているらしく足が入りませんでした。くつをのぞいて見たところ小さな本がまかれて入っていました。

ジョンのお父さんは校長先生でした。彼はお父さんから読書することを教えられていましたが，くつから取り出した小さな本を見てもさっぱりわからなかったので，すぐそれをお母さんの所へ持って行きました。その夜小さな本を読むお母さんのようすがいつもとかわっているのを見て，ジョンはふしぎに思いました。お母さんはだまって読んでいました。そのつぎの日お母さんはちがうくつを紙につつみ，「これからお話をしたいのでくつやさんに行って来ます」と言って出かけて行きました。

帰って来た時お母さんは何かぼんやりしたようすでした。何日かたってジョンのくつがもどって来ました。そのくつの中にもまた同じような小さな本が入っていたのです。その夜お母さんはその新しい本を読んでいました。ジョンはお母さんに「ぼくにも読んで聞かせてよ」と言いましたが，お母さんはわらいながら首をよこにふるだけでした。

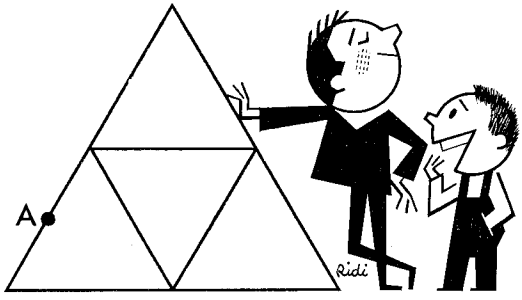
それから何年かたったある日のこと，お母さんは二足目のくつを持って行った時にくつやさんが言ったことや，どうしてくつの中に小さな本を入れたのかをはじめてジョンに話してくれました。

くつやさんはこう言ったのです。

「おどろくかもしれませんが，くつにしきかわを入れるよりも，もっとかちのあるものを入れておきますよ」

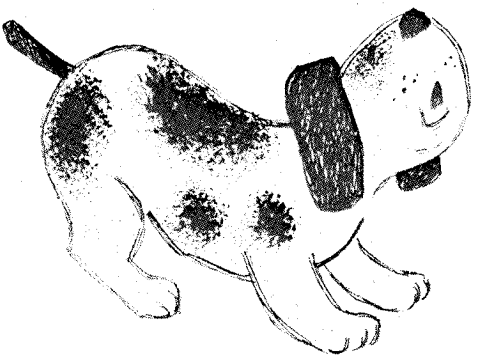
お金にかえられないたからをくつの中に見つけたお母さんは，やがて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。その小さな本というのは「モルモン」のせんきょうしのパンフレットだったのです。

（ルシル・シー・リーディング）



16の三角形

どうして次郎は太郎を見て笑っているのでしょう。なぜなら太郎がこの大きな図を16の小さな三角形にすることができるというからです。鉛筆をAのところにおいてそこにもどるまではなさないで太郎のいうのが正しいかどうか調べてみましょう。



こいぬが しったこと

ジェネヴィーヴ
ヴィ・ハント

たかいいたのへいがぱたーんとおとをたてたので，みるとぼうやがでかけていきました。そこでこいぬはもんのところへかけよって，とをあけようとしました。でもかけがねがたかすぎて，とてもとどきませんでした。こいぬはなきだしてしまいました。はじめはちいさなこえでないていましたが，なきごえはだんだんおおきくなっていきました。

「くんくん。くーん，くーん」

ばらのしげみでひるねをしていたこねこが，そのこえでめをさましました。うーんとせのびをして，からだを2，3かいぶるんぶるんさせるとにゃーおといって，「どうしてあなたはそんなになくの」とききました。

「ぼくー，ぼく，ぼうやがいないのでないてるの。がっこうへいってしまったんだよ。ぼくいっしょにいきたいんだ。くんくん。」

「あら，ばかね。ぼうやのせんせいは，あなたにがっこうへきてほしいなんておもっていないわ。」とこねこはしかりました。

「あなたは，やさしいなしのきおじいさんのかげでおやすみなさいな。はしりまわるにはあつすぎるわ。」

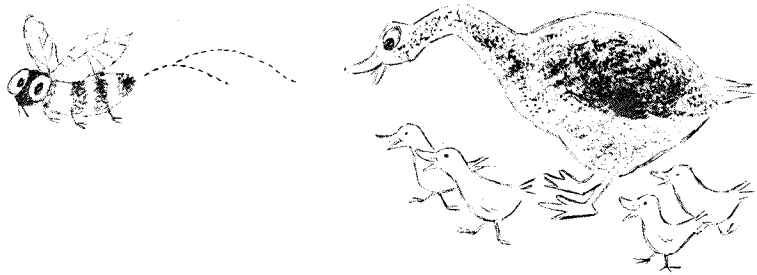
そういって，こねこはながいしっぽをふりふり，いってしまいました。こいぬはためいきをついて，こねこがみえなくなるまでじっとすわっていました。それからくびをかしげました。こいぬはかんがえるとき，いつもこうするのです。あのやさしいなしのきおじいさんのかげでやすんだらいいのかしら？　それともがっこうへいったほうがいいのかしら？

ちょうどそのとき，やおやさんがもんからはいってきて，とをあけっぱなしにしていきました。それをみたとたんに，こいぬはむちゅうで，にわをころげるようにかけだしていきました。てあしをぱたぱたさせて，いっしょうけんめいみちをはしっていきました。

こいぬはまもなく「せかいはぼくのものだ。」といいたそうに，おおいばりであるいている，とさかのあかいおんどりにあいました。

「がっこうへいくみちをおしえて。そしたらぼく，ぼうやにあえるんだ。」とこいぬはたずねました。おんどりははねをばたばたさせ，くびをのばしておおごえでこたえました。

「こけこっこー，こけこっこー，おうちに



かえったほうがいいよ。」

でもこいぬはどんどんかけていきました。しばらくすると，おがわのそばでクローバーのはなからみつをあつめているみつばちにあいました。

「がっこうへいくみちをおしえて。そしたらぼく，ぼうやにあえるんだ。」

「ぶーんぶーん。ぶぶーん。おうちにかえったほうがいいよ。」とみつばちはこたえました。

それでもこいぬははしりつづけて，こんどは，はいいろのがちょうのかぞくのなかへとびこんでしまいました。

1，2，3，4，5，6，7，がちょうのかぞくは7わもいました。

「があ，があ。」とはいいろのがちょうはおこりました。こいぬがこどもたちをいじめると思ったのです。

こいぬはおどろいて，ふるえながらちいさなこえで「くん，くん，くん。どうぞはいいろのがちょうさん。いかせてください ぼくはぼうやにあうために，がっこうをさがしているだけなんです。」

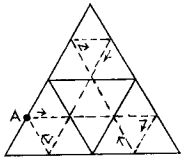
がちょうは，こいぬががっこうをさがしているだけだときいて，おおきなつよいはねでこいぬをおしだして，「があがあ，それじゃいきなさい。」といいました。

こいぬはかけだそうとしましたが，あしをどろのなかにつっこんでころんでしまいました。からだじゅうどろんこです。こいぬはなんどもからだをぶるぶるさせて，どろをおとそうとしましたが，なかなかおちません。「ああ，こねこやおんどりやみつばちのいうことをきいていればよかったなあ。うちにかえったら，もう2どとにげないようにしよう。」とこいぬはおもいました。こんどはむきをかえて，どんどんうちへかけていきました。そしてとうとう，やさしいなしのきおじいさんのまつにわへ，ぶじにもどってきたのです。

「ほらごらん。あなた，よいことがわかったでしょう。」とこねこはたかいきのうえからいいました。

こいぬはうちにかえれたのがうれしくてことばがでませんでした。けれどもぱたぱたしっぽをふってこたえたのです。

10頁のこたえ



レーモンと
にわとり

バーナディン・
ビィーティー

（フィリッピンの物語）

レーモンは妹のマリアといっしょに，フィリピンバリオ（村）へ長く続いているでこぼこ道のかたわらにすわっていました。二人のそばには，三羽の白いめんどりが入った竹かごがありました。

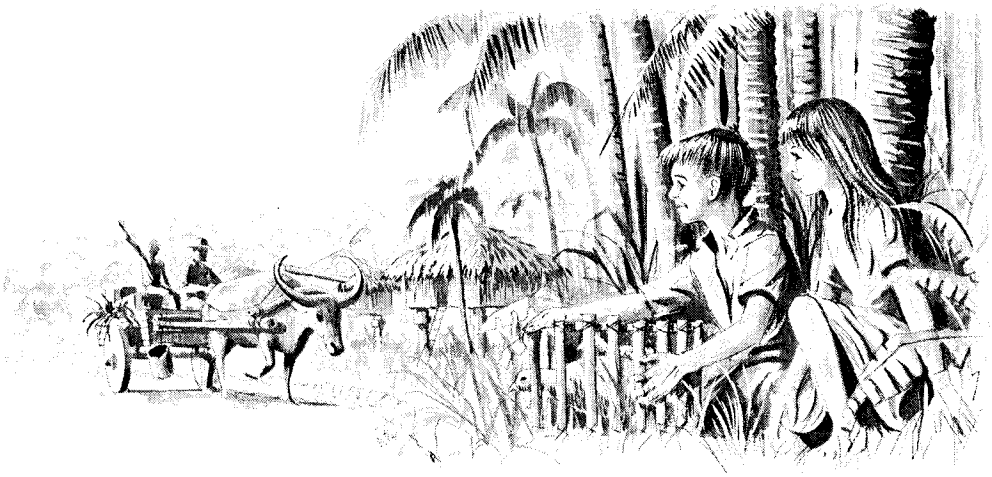
「いつか，きっと，私はめんどりをいくつか育てるわ，そしてビーズ糸を買うわ，青いビーズよ，夏の朝のお空のように青いのよ」マリアはうっとりとしていいました。

レーモンは，ちょっと笑いました。女の子は，どうしてそんなつまらないものがほしいのだろうかと思いました。

「おじいさんがきたわよ」マリアがさけびました。大きなカラバオ（水牛）に引かれて，ガラガラゆれながら，車は二人の方へやってきました。レーモンは，おじいさんの横にすわっているいとこのマニュエルを見たとき，おもわず，はっとしました。そうだ，マニュエルも市場へめんどりを持っていくんだ。6ケ月前おじいさんはレーモンとマニュエルに，三羽のめんどりをくれました。「高く売れるように，大きく育てなさいよ。そうすれば自分で使えるお金がたくさんできるからね」とおじいさんはいっていました。今朝，レーモンの心はドキドキしていました。「おじさんがマニュエルを自まんするように，ぼくを自まんしても，もういいよ，僕のめんどりは大きくなっているもの」すると，マリアがいいました。「おじいさんは，マニュエルと同じようにお兄さんをいつも自まんしているわ」

「ちがうよ，マニュエルは学校の成績も良いし，お祭りのマラソンでも優勝したよ。おじいさんは，僕が勝つと思っていたのになあ」

「パブロがたおれたとき，助けなければ，



お兄さんは勝てたわよ，みんなそういってるわ」
とマリアはいいました。「でも勝ったのはマニュエルさ」レーモンはいいました。
「ドウドウ」おじいさんは，レーモンとマリアのそばで，野さいと果物をつんだ車をとめようとたずなを引きました。
「ヨーシ」，レーモンが馬車に竹かごを乗せると，おじいさんは「こりゃすごい，ふとっためんどりじゃ，レーモンよ」といいました。
「サラマット（ありがとう）おじいさん」マニュエルはレーモンのめんどりをうらやましそうに見ていました。「めんどりをマーケットへ持っていったら，いくらで売れるかが大切なんじゃ」「良くふとっためんどりほど，高く売れるからね」おじいさんはにっこりしていいました。

マニュエルは「ぼくは，レーモンよりもっとお金をもうけられるよ」と自まんしました。

レーモンは「マニュエル，今はちがうよ今日はぼくの勝ちだよ」と答えました。

おじいさんはにっこりして「さあさあ，こっちへおいで，めんどりが売れてから，決めようよ」といいました。「じゃあ，マリア行ってくるよ」レーモンは水牛の車によじのぼりました。
「レーモンまって！　まってマニュエル」マリアはさけびました。

しばらくいっておじいさんは，車をとめました。そして村で一番年とった，カロッタマルチネおばあさんを，待ちました。おばあさんはとくいそうにいいました。
「わしのまごが町からやってきたんだよ。一番大きなめんどりをくれんか。わしのかごを売ったら来週お金は払うよ。」

マニュエルは「ヒンディ（だめだよ）わるいけどぼくは，今お金がいるんだ」といいました。

レーモンも，マニュエルと同じことをいおうとしましたが，このカロッタマルチネおばあさんのことを思いだしました。おばあさんはいつも，とても親切な人でした。ほんとうに村で，だれかが病気になったり困ったときは，いつも一番に行って助けました。

レーモンは，マニュエルと同じことがいえませんでした。彼は，とび降りて，竹かごをあけ，一番大きなめんどりをおばあさんにわたしました。「レーモン，ありがとう。」カロッタおばあさんはいいました。車が動きだすと，マニュエルは笑いながらレーモンにいいました。
「君は，もうめんどりのお金をもらえないよ。カロッタおばあさんは，年とって，忘れっぽいからね。」レーモンはため息をつきました。僕は，マニュエルのように上手な商売人にはなれないなあと思いました。それから，レーモンは急に元気になりました。それは，マニュエルのめんどり３羽より，レーモンの残った二羽の方が重いかも知れないと思ったからです。

そうだと，今日の夕方には，たくさんのお金が入るかも知れない。レーモンはおじいさんの顔をちらっと見ましたが，おじいさんは知らん顔をしていました。

みんなが市場へきてみるともうたくさんの人が集っていました。村からやってきた人々は市場の広場に持ってきたものをひろげていました。レーモンとマニュエルがおじいさんが荷物をおろすのを手伝っているとき，お客がやってきました。女のお客は「よくふとった，めんどりをください」といいました。マニュエルは喜こんで自分の竹かごをおろしていいました。
「ここによいめんどりがいますよ。」女の人は「これなの！私はこんなのをほしくあ

りませんよ」といって車のそばにやってきました。そしてレーモンのめんどりを指さして「そこの，それを下さい」といいました。レーモンはとても喜こんで，竹かごからめんどりをとりだしてわたし，女の人からもらったお金をポケットに入れました。マニュエルは「ぼくはめんどりをむこうへ持って行こう」といって，マーケットの入口の近くのあいているところを指さしました。

おじいさんはにっこりして「そうだ，マニュエル，ふとっためんどりがいるところでは，やせためんどりは売れないからねえ」といいました。

「まだまだ時間はありますよ」とマニュエルは笑いました。おじいさんは「レーモン，市場を見に行きたくないか，お客がきたらわしがお前のめんどりを売ってやるからいっておいで」といいました。

レーモンはうなずいて，とても喜こんでお店の方へ歩きだしました。お店にはすばらしいものがたくさんありました。水牛の角の柄がついたナイフや，ベットや，お菓子，魚，かご，イナゴのつくだになどがありました。

とつぜんレーモンはハットとして立ちどまりました。それはお店にビーズ糸，あの夏の朝のように青いビーズ糸がつってあったからです。彼は，マリアのことを思いだしました。さっきめんどりを売ってもらったお金で買えるかな。レーモンはうれしそうにニコニコしてお金をだしてビーズ糸を買い，ポケットの中へ，大切にしまいました。

マリアはびっくりして目を輝やかすだろうなあ。

急にレーモンの足はおそくなりました。でもぼくが，さっき二羽目のめんどりを売ってもらったお金を，青いビーズ糸を買うために使ってしまったことがわかったら，マニュエルは笑うだろうなあ，と思いました。

「待て！　どろぼう！　待て！」店の主人は，大きな声をだして，レーモンの方へ走ってくる少年を追いかけてきました。レーモンは少年をつかまえてしっかりと押えました。「ぼくは，なんにもとらないよ！」少年はこわそうに店の主人を見あげました。「ぼくはただ仕事をさがしていただけだよ」「ああ！　やっとつかまえたぞ！」

店の主人は，少年のみすぼらしい上着をなでまわしました。主人は，何も見つけることができませんでした。それでもおこって，にらみつけ，その子の肩をはげしくゆさぶりました。「もう二度とわしの店に近寄るなよ」といいました。少年は，レーモンの腕の中でもがきながら「放してよ！」といいました。

その子は，とてもやせて，おなかがすいているように見えました。レーモンはその子を見てニッコリ笑い「もうこわがらなくてもいいんだよ，ぼくらは友だちになろうよ。ぼくといっしょにおいでよ。お母さんが作ってくれた，食べ物をあげるよ」少年の顔は，喜こんで二人が，おじいさんのところへ戻るときには，とてもはしゃいでおしゃべりをしていました。

「この子はだれだ」おじいさんはたずねました。「ぼくの新しい友だちだよ，おなかのすいている友だちさ」とレーモンは答えました。

「ぼくは，ジュアンです」その子はいいました。「よくきてくれたね，ジュアンよ」とおじいさんはやさしくいいました。

「ぼくは，おばさんといっしょに住んでいます。でも，おばさんは，ずっと病気なんです。だからぼく，仕事を見つけようと思ったんです。

おばさんに，おくりものをあげたかったんです。」 少年は，こういってこわそうにレーモンを見あげました。「ぼくは，どろぼうではないよ」「そうだとも，君は，どろぼうではないよ」おじいさんは，少年とレーモンの二人へ，食事をもってきて「さあ，いっしょに食べよう」といいました。ジュアンはおじいさんがおいてくれた食事をていねいにわけて，おじいさんに「これを，ぼくのおばさんに持っていってもいい？ ぼくはそんなに，おなかがすいていないんだよ」とたずねました。

レーモンはのどを，ごくりとさせて「もちろんいいとも」といいました。おじいさんはまたほかからマンゴとたまごをだしてきて「ここにもまだあるよ。」といいました。ジュアンの目は，かがやいて，立ちあがり，はずかしそうに笑いました。「みなさん，ありがとう」「待って，ジュアン」レーモンはそういって，かごからさいごのめんどりをだしてきました。そして「これ君のおばさんへあげるおくりものだよ」といってわたしました。ジュアンは，ちょっと，どうして自分がこんなに親切にされるのか，わかりませんでした。マニュエルがむこうからからになった竹かごをもって，こっちへ走ってきたときも，ジュアンは，まだどうしてかんしゃしようか，もじもじしていました。それから，ジュアンは手をふって，人ごみの中に消えていきました。マニュエルは，大声でわらいました。かれはポケットに手を入れて，お金をいっぱいとりだしました。

「おじいさん見てよ」マニュエルは自まんそうにいいました。そして「さあ，こんどは，レーモンがどれだけもうけたのか見せてよ」といいました。

「レーモンおいで」とおじいさんはいいました。レーモンはためいきをつきました。ポケットから，ビーズをだして「マリアへのおくりものだよ」といいました。マニュエルは「それだけなの」とたずねました。「そうだよ」レーモンはおじいさんの方をむいて，「ぼくは，じょうずな商売人にはなれないだろうね」といいました。

おじいさんの黒いひとみが，きらっと光りました。おじいさんは，レーモンにいいました。「レーモン，おまえは，自分のめんどりを３つのものに売ったことになるんだよ。ひとつは，カロッタおばあさんの幸福，それから新しいお友だち，そしておまえの妹のためへの美しいおくりものだね。これらはお金よりも，もっとねうちがあるんだよ。おまえの商売は，じょうずだったよ。わしは，おまえを自まんしているよ，レーモンよ」

レーモンは胸があつくなりました。そしてマニュエルが，がっかりしておこっているのがわかりました。マニュエルは，レーモンの手の中で，宝石のようにかがやいているビーズと，自分の手にあるお金を見つめていました。彼のおこった顔はだんだんなくなっていきました。

マニュエルは，じっと立っていましたがやがてニッコリとほほえみました。そして「おじいさん，おじいさんはぼくたちがどうなるか知っていたんでしょう。そして僕に大切なことを教えようと思ったんでしょう」といいました。おじいさんは，やさしそうにわらって「マニュエルが，よくわかってくれたら，わしはうれしいよ」といいました。

レーモンとマニュエルの目があったとき２人はいっしょに笑いました。おじいさんは，とてもとても２人をよく知っており，たくさんの愛をもっていました。２人にとって，それはそれは深くて強い愛だったんです。

日　曜　学　校

過　ぎ　越　し　の　祭　り

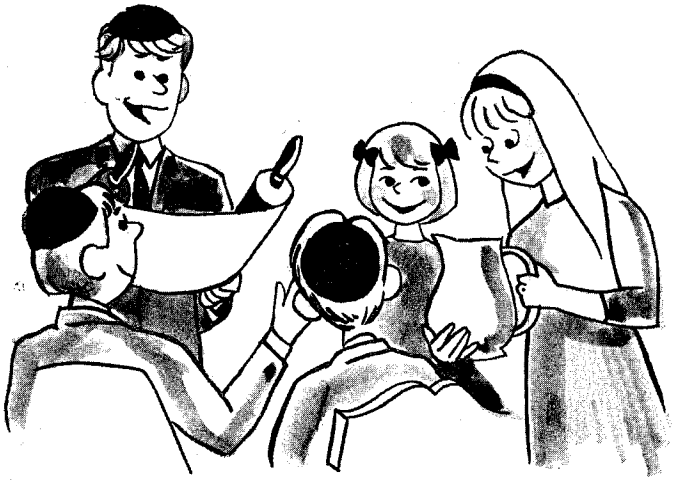
ヘレン・ブレーク・スミス

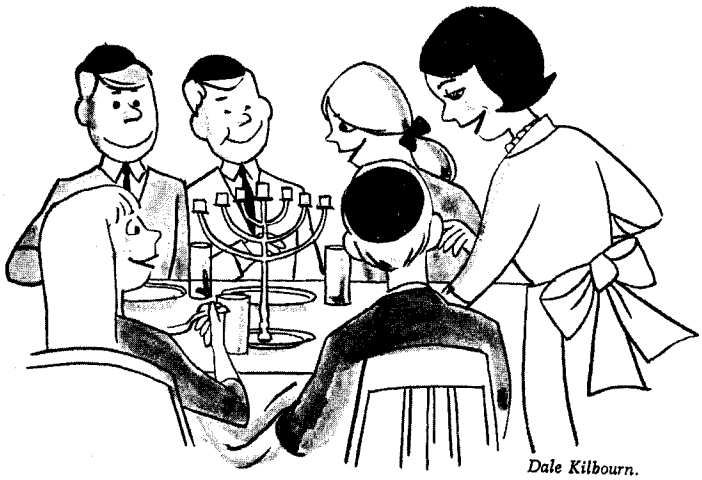
私は教会の会員として，もうすぐ半世紀にもなろうとしておりますが，今までに日曜学校の先生の経験がありませんでした。現在，16歳と17歳の生徒を教える責任をいただいていますが，彼らがいわゆる「難かしい」年代なので，私自身困惑する時があります。すぐれた教師用手引はいずれも「生き生きと教えなさい」と忠告しています。

生徒たちは「パーティーをしましょうよ！」とたびたびいいます。

この授業に興味を覚えないクラスをどうしたら生き生きと教えられるでしょうか。日曜学校でパーティーをすることが良いのでしょうか。慣れない教師は，何をすれば良いのでしょう。

私たちは「主のメッセージ」の９課を勉強していました。私が彼らに「過ぎ越しの祭り」について説明していたとき，それが生徒たちに伝わっていないと痛切に感じたのです。その時急に私は「自分たちで過ぎ越しの祭りをしてみたら，教師と生徒がひとつになるのではないだろうか」と思いつきました。時期的にはいいし，このような休日として祝うお祭りで私はもっと生徒に近づけるのではないかと考えました。この私の提案に対しても，生徒たちはそんなに熱心でありませんでした。でもこの考えは受け入れられました。それも“まあだれかがやるからいいさ”という程度の暗黙の了解でした。私はバイブルで使われているようなことばを，羊皮紙のような紙に書き巻き物のように細い棒に巻きつけ，わらで結んだ招待状をだしたらと思いましたが，生徒たちはあまり興味を示しませんでした。クラスの役員は，その招待状を渡すことには賛成でした。もちろん不活発会員も招待しました。





過ぎ越しの祭りの研究

何か出席者をあっといわせることがどのようなパーティーでも一番大切です。私はそれを自分で製作しようと決心しました。それで公共図書館と2，3のユダヤ人の友人から教えを受けて資料を集めました。ユダヤ人の信仰の3つの形式から彼らの習慣を浮きぼりにして，多少変わったところがあったとしても，本物の過ぎ越しの祭りの形をそのまま表わせるものを工夫することができました。

古代の祭りを調べていくにつれて，私はユダヤ人の信仰の中にある神への愛また家庭や家族が美しい生活をしようとしている信念に強く心を打たれました。私はセダー（奉仕の順序の意）が過ぎ越しの前夜に行われ，八日間の祝いの最も盛り上がる日であることに気がつきました。

過ぎ越しの一週間の時だけ使われるお皿は，持ち寄って洗われます。また過ぎ越しに使われる銀の器はきれいに磨かれます。明るくきらきらとあかりのともった家は，家族の族長か一番年上の男の人の指示によって，この古代のならわしに参加するために集まるときそれは，家族の幸福そのものを光りかがやかせているようです。

過ぎ越しの祭りの準備は高まる

クラス委員長が，私たち28人の夕食をする部屋をお母さんにたのんでくれていたので，私はこの祭りの出来事を書きつづけることに専念できました。親切なそのお母さんは，よく私たちの意図を理解して下さり，食堂を使うのはもちろん，樫の木でできた家具・すばらしいテーブル掛け，陶磁器，フォーク類などをも使わせて下さいました。

夕食の日が近づくにつれて，私は会員たちに電話をかけ，特別に助けをお願いしたいとお話しし，責任を割り当てました。彼らはこれらのお願いを喜こんで受けて下さいました。

過ぎ越し

私たちはドアに，「小羊の血」を象徴した印（しるし）をつけている彼の家に集まりました。クラス委員長は，クラスを一つの家族とみなして，族長すなわち「父親」の役につきました。

みんなが黒いちりめん紙で作ったママカス（丸ずきん）をかぶると彼はユダヤの聖典を読みました，（その帽子は神の御手に守られていることをあらわすものです）少女たちは手を洗う儀式のためとかわいらしい青い水さしとリンネルのナプキンを配りました。そして，私たちは立ちあがって，さあ，はじめましょうと「苦菜」を食べました。

それからクラス委員長の家で美しいテーブルのそれぞれ定められた席につきました。そのテーブルの中央には先祖からずっと継承されてきた7つの枝のついた大燭台がおかれてありました。

家族の長の前には，セダーを象徴する大皿が置かれました。これにはいけにえの羊をあらわす焼かれた小羊の骨，生命と希望の象徴である焼かれた卵，義を失った者の苦しみをあらわす「苦菜」としてしょうがの根とパセリ「イスラエル人がエジプト人に強制的に奴隷にされて血みどろで赤いれんがを作ったことをあらわす」リンゴと豆と酒（私たちはグレープ・ジュースを用いた）の混ぜ合わされた赤いものが置かれました。

「族長」はテーブルの上座で管理し，お客としてきており，また最年少の出席者でもあった私の息子が，伝承されている「四つの質問」をし，族長は束縛から逃れたイスラエルの子孫の古代の物語りを語りました。

トーラ（律法の書）には次のように書かれています。

「後になって，あなたの子が『これはどんな意味ですか』と問うならば，これにいわなければならない，『主が強い手をもって，われわれをエジプトから，奴隷の家から導き出された……』（トーラ出エジプト記13：14）

主人役は徳高い女性に関するソロモンのことばを暗誦し，家族の母親に対するヘブライ人の祈りを読みました。そして，ヘブライ人の食事の祈りをしました。

聖なる儀式を演じる時，そこには荘厳さがありましたが，またおもしろくて楽しいものでもありました。私が儀式のひとつひとつを説明しているとき，若い人たちの顔が明るく輝やくのがわかりとてもうれしく感じました。彼らの目はきらきらと輝やきいつもと違ったパーティーをしているというだけでなく，経験を通じて，生き生きとした学習の時間をもっているのだということを，はっきりと告げていました。

私たちは，その後天然色映画を借りて，聖地の旅をしました。奇蹟が行なわれた有名なところや，クラスで討論したことのあるたとえ話が話された有名なところを見ていきました。それから，エルサレムからカルバリに通ずる，狭い曲がりくねった路の苦痛の旅を見ました。

私たちの過ぎ越しの祭りは終りました。特別なお客さんも含めてみんなが，聖書にある古代の祭りに実際に参加しました。彼らはこの企画が「つまらない考え」とは思わないで，私たちが食べたり演じたりした事の意味や目的をみな熱心に知ろうとしていました。

次の日曜日の彼らのようすは私が知りたいと思っていたものをみな教えてくれました。まず，朝のあいさつは固苦しく形式的な態度がなくなって，親しみのある「おはよう」でした。

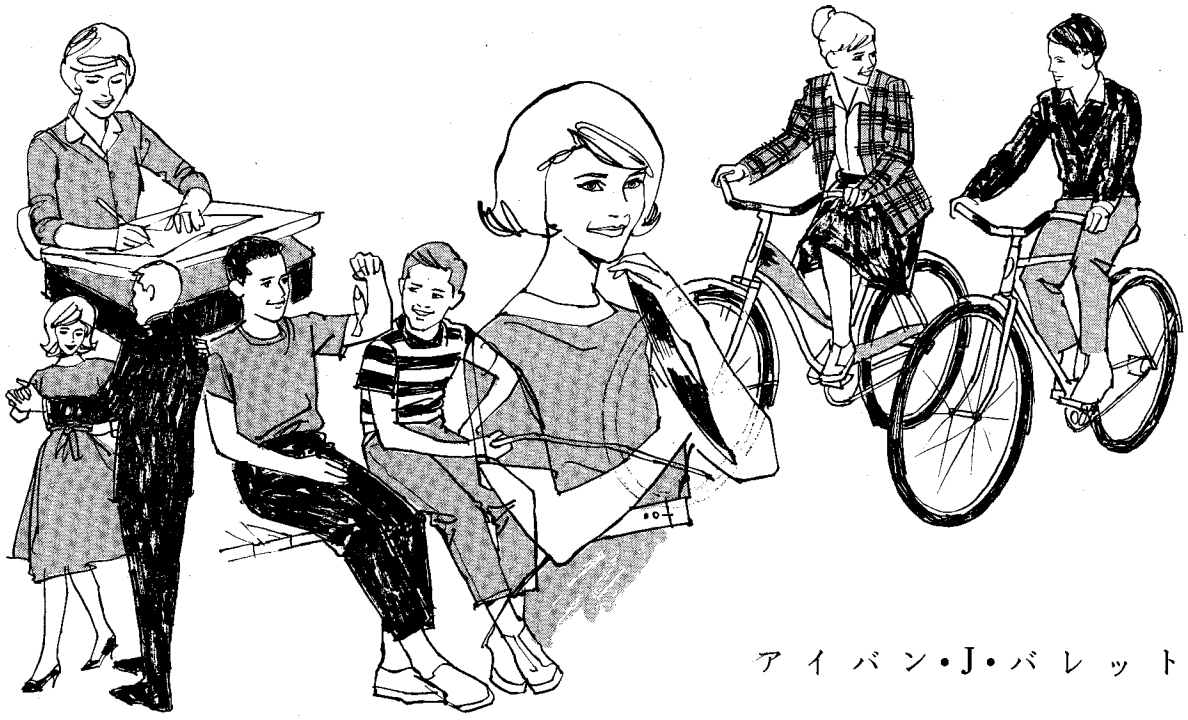
そして私が「イエスさまがこの地上にいらっしゃったその時の『ならわし』は……」といってレッスンを始めた時，生徒たちが関心を持って，耳をすましていることが感じられました。私はついに彼らとかよいあうことができたのです。

過　越

この月の十日におのおの，その父の家ごとに小羊を取らなければならない。

すなわち，一家族に小羊一頭を取らなければならない。もし家族が少なくて一頭の小羊を食べきれないときは，家のすぐ隣の人と共に，人数に従って一頭を取り，おのおの食べるところに応じて，小羊を見計らわなければならない。小羊は傷のないもので，一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから，これを取らなければならない。そしてこの月の十四日まで，これを守って置き，イスラエルの会衆はみな，夕暮にこれをほうり，その血を取り，小羊を食する家の入口の二つの柱と，かもいにそれを塗らなければならない。そしてその夜，その肉を火に焼いて食べ，種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。生でも，水で煮ても，食べてはならない。火に焼いて，その頭を足と内臓と共に食べなければならない。朝までそれを残しておいてはならない。朝まで残るものは，火で焼きつくさなければならない。あなたがたはこうして，それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ，足にくつをはき，手につえを取って，急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。

出エジプト記　12章3～11節



アイバン・J・バレット

ジョセフ・スミスの物語を読むすべての人は，その幼年時代の勇気，青年時代の信仰，その生涯を通じて家族がジョセフに示した大いなる愛を見出すにちがいありません。

ジョセフ・スミスの少年時代

——大いなる感動を呼ぶもの——

ジョセフ・F・スミス大管長は，ジョセフ・スミスの少年時代について思いをめぐらすときいつも大いなる感動に満されると述べておられる。確かにジョセフ・スミスの無邪気で素朴な少年時代は，彼に感動を与えるものであったに違いない。

その少年時代といえば，当時の子供たちとなんら変わりのないものだった。「貧しいながらも，その両親は正直で善良な人だった。二人は真理を喜び，心から自分の良心に従って生きたいと望んでいた。どんな人々に対しても変らない愛と善意は心にも行ないにもあらわれ，子供たちはこれらのことを心にしみ込まされていた。二人は固く神を信ずる人たちであり，子供たちを神が見守って下さっていることを信じていた。彼らはしばしば，神から親しくお告げを受けた。夢や示現や霊感によって。子供が死にそうになった時には，いやしてその祈りに応えられたのであった。」（ジョセフ・F・スミス著「福音の教義」488頁）

祈りはスミス家では，日常の習慣であった。父スミスがチョッキのポケットにある眼鏡をまさぐりはじめると，子供たちは祈る準備をしたものでした。夕べの祈りが終ると，彼らは「今日一日も過ぎ去りて，われら床につかん」と歌ったのである。

勉学と労働の幼少時代

ジョセフとその兄弟姉妹たちは，毎日聖書を読むように教えられた。ある近所の人が，スミス家について次のようにいっている。

「彼らは家の中に学校をつくって，聖書を勉強している」

ジョセフの教育を受ける機会は限られていたとはいえ，ニューハンプシャー州のヴァーモントにある学校とニューヨーク州のパルマイラにある学校に通った。

ジョセフ・スミスは貧しい生まれであった。両親は農夫であり，物質的には恵まれていなかったが，精神的，霊的には豊かであった。ジョセフは兄弟たちと一緒になって一生懸命に働いた。後に，ジョセフ・スミスは次のように言っている

「私の家は物質的に恵まれていなかったので，自分たちの

手で働かねばならず，その日暮しの仕事を見つけてやとわれたりすることもしばしばあった。時々は家にいて働くこともあったので，落ちついた生活をすることができた。」

しばしばジョセフ・スミスは，金持ちの農夫であったマーティン・ハリスに雇われた。彼がジョセフに支払った賃銀は他の雇い人の中では最高で，50セントであった。マーティン・ハリスは今まで彼が雇った人の中で，ジョセフが一番の働き手であったと述べている。

「わが父の家族の中で最も高貴な人」

十代になったとき，ジョセフは最年長の兄アルビンを賞讃し，殆ど偶像視していた。後に，ジョセフは彼について書いている。

「彼はわが父の家族の中で，最も年長で，最も高貴な人であった。彼は世間的にも高貴な人の部類に入る人だった。彼には狡猾さはなく，子供の時から，一点のくもりもなく生きた。生れて以来，彼は決して馬鹿騒ぎをしなかった。彼は公平で真面目で決して世の遊びをしなかった。いつも苦労している父母を思う真面目な人であった。……」

アルビンは強くてハンサムだった。聖書に完全な人として述べてあるアダムとセツに比すべきものとかつてジョセフは言ったことがある。

ある日，ジョセフとアルビンがパルマイラへ行ったとき，二人のアイルランド人がけんかしているのを丸く輪になって見ている一団に出会った。地面にその一人が叩きつけられるまで，アルビンとジョセフはじっと見ていたが，そのとき，アルビンの眼は怒りに燃えた。このけんかの結末がアルビンの正義感を呼びさましたのだった。彼は群衆を押し分けて進み，勝ち誇った乱暴者のえりを捕えると，けんかを見ていた人の輪の向こうへ彼を投げ飛ばした。

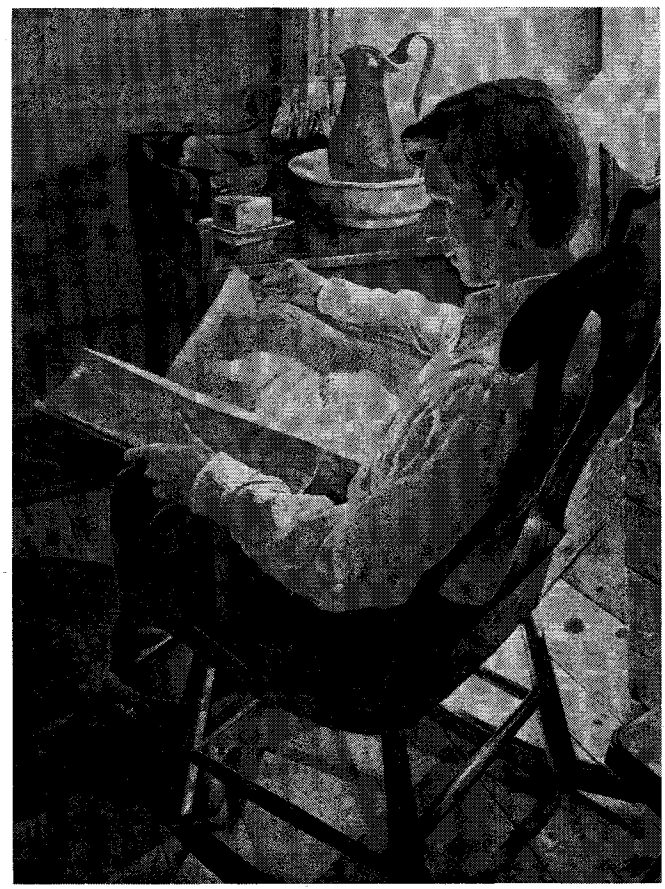
暖炉の前での夕べの集り

主の御業をジョセフ・スミスに告げるため，天使モロナイが彼の前に現われたときから，モルモン経をこの世にもたらすことが彼の主な仕事となった。それでスミス家は，毎晩暖炉の前に集まり，ジョセフが話す，アメリカの古代住民の驚くばかりの話のとりこになってしまった。ジョセフは，古代アメリカ人の着物，旅の方法，乗りものに使う動物，都市，戦いの方法，礼拝方法など，ジョセフがあたかも一生涯彼らの間で暮したように，微に入り細にわたった説明をするのだった。このような最初の夜，ジョセフの興味ある物語に家族がじっと耳を傾けていたとき，アルビンはいった。

『さあ，もう遅いから寝よう。明日は，朝早く起きて仕事をしたら，いつもより早く終るよ。それで，お母さんに早く夕食の仕度をしていただいて，夕食後，皆でゆっくり話がきけるじゃないか。ジョセフ，君が話しているのは，神が君にお示しになった偉大な事柄なんだから，私たちはそうしようよ。』

若い予言者が天使モロナイから示現を受けた二カ月後に，アルビンは胆汁炎になり，村の医者が手を尽したが，死んでしまった。死の前に，アルビンは家族の一人一人に言葉をのこした。ジョセフに対して，「善良な少年になって欲しい。そしてその記録を得る為に全力を尽しなさい。導きを受けるように忠実であって，与えられるすべてのいましめを守りなさい。君の兄アルビンは君を残してゆかなくてはならない。でも，君に示した私の模範を思い出して，君より小さい兄弟たちに今度は君自身が模範となって欲しい。父と母にはいつも親切であるように」と。

ジョセフはアルビンが死んだときの深い悲しみを思い出しては，あの柔和な心の持主だった兄に対して張り裂けるような悲しみを味わった，と後に思い出として述べている。アルビンは，死の寸前に，主の使いの訪れを受けたのであった。



正義を信じたジョセフ

ジョセフは大きな体格の，青い目の，亜麻色の髪をした男児であった。彼は良い性格でもの静かな男だった。幼ない時から思慮深く従順で，やさしく愛らしい気質をもち，善良な性格，従順，忍耐，根気，勇気という根本的な美徳をそなえていた。彼はどんな人に対しても決して，好戦的に事を構えるようなことはしなかった。しかし，弱い，力のない者につけこむ不正や悪だくみを見たとき，彼はその誤りから守るために，戦う準備をした。かつて，彼がまだ少年のとき，妻を鞭打っている男に出合った。不正に対する怒りが，彼を行動に駆りたてた。彼が37才のとき，この出来事を思い出して次のように述べている。

「妻を鞭打つような男は臆病者である。私が子供だったとき，妻を鞭打っている男と戦ったことがある。それはたいへんな戦いだった。しかしその男は妻を打ち続けていた。これが私を勇気づけ，私は彼がもう沢山というまで，その男を鞭打った。」

「救われるために私は何をなすべきか」

ジョセフ・スミスはこの世的な教育という点では，教育のない青年であった。しかし，ジョセフは天父，イエス・キリスト，聖霊，天使たちから教育を受けたので，彼よりもすぐれた知性のある人を何人か合わせても，とても彼には及ばないであろう。「神の独り子が墓からよみがえり，昇天された出来事以来，この世に起こった最大の事件は，少年ジョセフスミスに御父と御子が訪れた事である。」とジョセフ F・スミス大管長は述べている。ジョセフ・スミスは家庭で宗教教育を受け，天父と彼との関係を鋭敏に察知していた。14才のとき，彼は「救われるために何をすべきか，また，すべての教派の中でどれが正しいのだろうか」という疑問をくり返し考えていた。村の牧師にこれを尋ねたあと，彼は聖書を開きそれに対する答えを得る鍵を見つけた。

「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に願い求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう」

（ヤコブの手紙　1：15）

彼はこの約束を実際にやってみようと考えた。この希望あることばを読んだ翌朝，彼はひっそりとした森へこもった。その森は，彼の母のストーブにくべる薪を切ったところであるが，そこで祈り，光栄ある示現を受けた。

「しかし，私は自分を捉えたこの敵の力から何とぞ逃れしめたまえと，全力を振りしぼって神を呼び求めたが，私が今にも絶望に打ち沈んでわが身を破滅に任せようとしたその瞬間，それは考えただけの滅亡というようなものではなく，目に見えぬ世界から来た何ともわからぬ生き者で全くこれまで私がどんな者に逢っても覚えたことのない程の驚くべき強い力を具えた力に打ち負けて，わが身を見捨てようとしたその瞬間，この非常な驚きの瞬間である，私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて，光はついに私の上にふり注いだ。その光の柱が現われるや否や，私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留まった時，私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい，他のお一人を指して『こはわが愛子なり，彼に聞け』と仰せられた。

（ジョセフ・スミスの著　2：16，17）

パウロのように

この輝かしいメッセージは，老若を問わず全ての人々に，ひじょうな感動とよろこびを与えて来た。それから何年か後の1834年に，13才になるエドワード・スティーブンソン少年は，ミシガン州のポンティアックに住んでいたのだが，予言者ジョセフ・スミスが手を挙げて，

「私は神が存したもうことを見た者である。なぜなら，私は真昼に神を見たからである。それは，1820年の春，静寂な森の中で祈っていたときであった」

と証詞するのを聞いたとき，入口に座っていたこの13才の少年は叫んだ。

「ああ，この人はなんてすばらしい人なんだろう。昔の使徒パウロのようにこの人は大胆に自分が神の御前に居たと証詞しているんだ。」

この最初の輝かしい示現により，すべての少年少女たちは将来の導きを得るための教訓を受けることができる。真理を知ろうとする願いに対しては，霊感が与えられるということ，心からの祈りは常に天父によって聞き届けられ，答えられるということ，真理を知ったとき，それに反対する悪の力と戦う準備をしなければならないということ，努力という高い代価を払わねばならないこと，正しい生活をすべきこと，すべての苦しみに打ちかつように，神が力を与えて下さるという確信をもって他人に奉仕すべきことを学ぶであろう。

MIA

青年女子相互発達協会は1869年11月28日に組織され，その後1875年には青年男子相互発達協会が組織された。

1869年11月28日，ブリガム・ヤング大管長は，いつものように家族の祈りをした後，その家族に次のように述べた。

「イスラェルの人々は私の家族に注目し，模範を見ようとしている。……そのために私はまず最初に私の家族をととのえて，秩序と倹約と勤勉を習慣づけ，愛を高めるための会を作りたい。とくに衣服や食べ物にぜいたくをせず，また無駄な話しをしないようにしなさい。今は，姉妹たちが服装に心を奪われることなく質素な衣服を用い，謙遜な態度で，世の人々に手本とされるような価値ある模範を示さなくてはならぬ時である。末日聖徒の婦人たちは皆世のつまらぬ流行に心を奪われることのないようつとめている。……私はあなたがたに自分の型を確立してほしいと願う。あなたの衣服をこざっぱりとととのえ，自分の手でそれを飾りなさい」

「シオンの娘たちが，教会の古い会員である父や母を助けて私の教えてきた原則を広め，教え実践できるように私は長い間一つの組織を作ることを考えてきた。……私は神の娘たちに，自分たちのために備えられている福音の知識を得てほしいと願っている。そのために，この組織を作りたいと思い，また私の家族がその中で人々に率先して働くものとなってほしいと願う。やがて私たちはぜいたくをつつしむ組織をつくる。あなたがたは皆その組織に参加してぜいたくな衣服や食べ物をやめ，不必要なことばを口にしないと決心してほしい。今まであなた方は深く考えないで軽率なことばを話すという罪を犯してきた。あらゆる無駄なよくないことから離れて美しく善いことを育てなさい」

ブリガム・ヤング大管長のひ孫が祖母から聞いた意味深く

おもしろい経験について語っている。ブリガム・ヤング大管長は無駄をつつしむ組織をつくることを特に強調して語った。彼の娘のうち10人はすでにデートをする年令に達していたが，その次の日曜日の夜，10人の若者が教会を訪れた。夜のとばりがすっかりおりた。一人の娘がランプのシェードをおろして部屋を暗くし，ロマンチックな雰囲気の中で，ある人は歌い，ある人は本をひろげ，ある人は聖典を読んでいた。急にブリガム・ヤング大管長が腕に10の帽子をかかえてライオンハウスの居間の戸口に姿をあらわした。

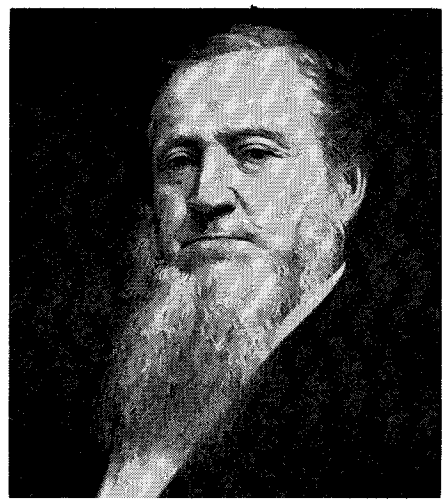
皆があっけにとられているうちに彼は若者たちのそばへ行き帽子を手渡しながら，部屋を出て行ってくれるように告げた。彼らが立ち去つた後，大管長はやさしく，しかし，はっきりと娘たちの行いをさとした。その後，彼女たちはもう二度とランプを暗くはしなかった。

1875年ブリガム・ヤング大管長は教会の若い人に向かいこのように話した。

「あなた方は互いに発達するための会を組織しなさい。真理と大いなる末日の業についての証詞がまだ弱い若い時に，人生の偉大な永遠の原則を学び，かつ実践し，神のしもべとして働きながら与えられた賜物を伸ばすことによって，確かな証の基いをすえなさい。そしてそのことにあなたの働きの基盤を置きなさい」

若い女性のための節約の会はだんだん回数が減ってきた。1875年にYMMIAが組織された時，両方が協同の組織として認められるようにと，今までの若い女性の節約の会はその名をヤングレディズ相互発達協会と変えた。1924年の初めにヤングレディズという名称につき，レディズを女子と改めることの提案が中央管理会に出された。よく検討された後1934年3月28日に組織の名称は青年女子相互発達協会と変えられ，1934年5月教会大管長会に承認された。

YW・MIAとYM・MIAはこの種の組織では世界にただ一つのものであると言われている。二つの組織でありながら，その目的は一つである。若い男性と女性は若い時代に学ぶべき霊的，学問的ことがらやレクリェーションを共通に必要としてはいるが，それぞれにまったく違った組織を持っている。彼らはブリガ・ムヤング大管長によって述べられたことばを実践しようと，協調しながら勤勉に働くのである。YW・MIAが始まった1869年及びYM・MIAが始まった1875年以降，多くの若人がその組織に属し多大な影響を受けてきた。

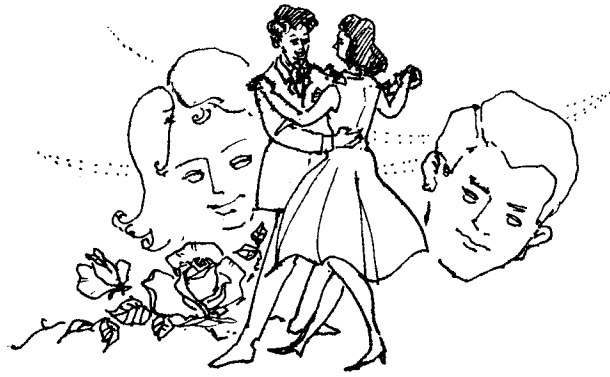


MIA役員が世界中をまわって大会に出席していた時，彼らはそれぞれの国語で記され若人たちの心に刻まれているMIA標語を見た。「神の栄光は英智なり」

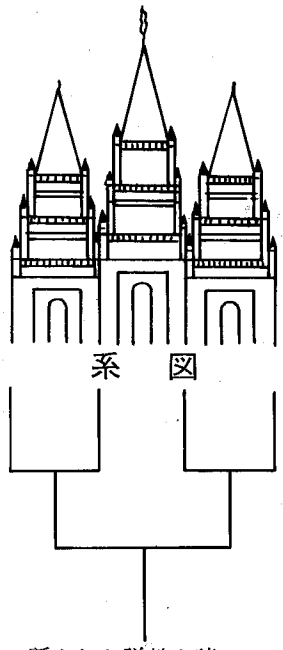
MIAのカラーは金と緑である。金は力，ほまれ，強さ，そして若者のめざす輝ける頂上を象徴し，緑は若さと成長と進歩をあらわす。

YM・MIAの第一副管理会長であるジュニアス・F・ウェルズはカラーの意味をこう述べている。

「若い時代は人生の春であり，春は輝かしい緑と成長の時である。金は知識の光であり，太陽の色である。緑と金はMIAのカラーとして若さと成長，力と栄光を意味する。MIAの目標は，はるかな将来，英智の光に頼るすべての人々が力と栄光を加えられる時まで，光に光を加え，知識に知識を加えることである。」



あなたの先祖は待っている



最近，私たちは教会幹部が以前に話された説教を読んでいるうちに，十二使徒会の一員であったマリナー・W・メリルの説教を見つけました。その説教は1895年になされたものです。それをここに引用します。

「私には幕の彼方の霊界の有様が，現世と同じように手に取るようにわかります。そして霊界では先祖の人たちが救いのために必要な私たちの働きを心配そうに見守っていることもよくわかります。長老たちは世界中の民の間に出て行って福音を説き，町から家から一人，二人とわずかずつ人々を教会に集めています。彼らのうちある人々は死んだ先祖のために一生懸命働いています。私は時々末日聖徒がこのことをそれほど重要に考えていないのではないかと心配しています。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は長年神殿で働きました。おそらく教会で自分の先祖や亡くなった人々のために一番よく働いたのは彼ではないでしょうか。

私たちはまだまだなすべきことの半分もなし遂げていません。主からはじめてこの仕事の啓示を受けた予言者ジョセフ・スミスは，これに深い関心をもっておりました。その生涯の終りに近く，彼は聖徒たちにむかい先祖を救う重要さについて特に語りました。ジョセフは聖徒たちが関心をもち，全力を尽して先祖のために働くべきであると感じ，しばしばそのことについて語りました。聖徒たちがシオン山の救い手となることについて，予言者ジョセフ・スミスは兄弟たちに次のように言いました。

どのようにしたらシオン山の救い手となれるでしょう。神殿を建て，浸礼盤を建設し，死んだ先祖のためのバプテスマ，按手確認，聖なる洗い，灌油の儀，神権聖任，結び固め，その他すべての儀式を受けます。そのことによって先祖たちが第一の復活にいできたり，共に栄光の位にあげられるよう彼らを救うのであります。この中にこそ，父の心を子に，子の心を父に結ぶくさりがあり，それによってエライジャの使命が成就されるのであります。

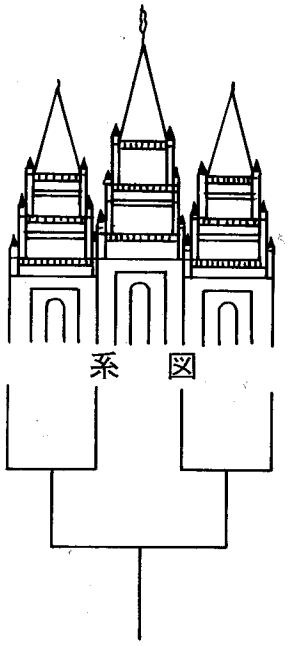
使徒は「私たちなくしては彼らが全うされることはない」と告げています。子孫と先祖を結ぶために私たちは結び固めの能力を持っていなければなりません。予言者の後を継いだ神の僕たちは，ジョセフの意志を継いで，神殿建設の仕事を続けてきました。神殿を建てるために何十億というお金が費やされてきましたがそれには確かな目的があったのです。末日聖徒は主の神殿が建てられた目的をよく考えるべきであります。もしも私たちがこれらの神殿を建てなかったら，主は私たちを拒まれたにちがいありません。世界中の聖徒たちはこのことを深く考えるべきであります。

あなたは子供たちや妻があなたに結ばれることを望み，また妻は夫に結ばれることを願っております。あなたはまた先祖が救われるために手伝いたいと望んでいらっしゃるにちがいありません。私たちはすでにこの業を始めております。あなたも私もいずれ死を味わいます。誰もいつまで生きられるか知ってはいません。私は自分が

再びこの壇上に立てるかどうかさえわからないのです。神から知らされない限りあなたは先祖のために働く時間と機会がこの先どれ位あるのか知ることができません。やがてこの世を去り先祖に会う時，あなたは彼らのためにした働きを問われるでしょう。あなたは先祖のために何かをしましたか。教会の多くの人々はまだ何もしておりません。この仕事に深い関心をもっているのはほんの少数の人だけです。私はあえて申し上げます。多くの人々がよろこんで神殿の建設に参加しましたが，まだ神殿に入ったことのない人が大勢います。

兄弟姉妹のみなさま。このことは私にとって重大なことですが，またあなたにとっても重大なことなのです。それは主が私たちに課せられた責任であり，主の僕たちはこのことについても主の御意を遂行してきたのです。父の心を子に，子の心を父に向けて，主の言葉を成就する機会は私たちの手の届くところにおかれているのです。私たちの多くはまだ肉親や友だちのためにバプテスマを受けたことがありません。私たちは現世よりも来世に多くの肉親や友だちをもっており，そこで彼らに会うのです。先祖の系図を探求するために多くの時間とお金を費やしている人もいますが，ある人たちはその責任から逃れようとしています。ここで私が聖徒に忠告したいことは，まずあなたの先祖の系図を調べ，神殿に行って彼らのために必要な儀式を受け，それからへりくだって主に，更に多くの先祖の記録が得られるよう祈り求めなさいということです。主は未だかつてなかったほど，世界中の多くの人々を啓発して，記録や系図を書かせておられます。人々はそれらを探求していてもなぜそうするのかおそらく知っていないにちがいありません。しかし，確かに主が人々をそのように動かしておられ，関心を持つ多くの人々は主の助けを通して先祖の記録を得ることができるのです。もちろんそれは多少のお金と時間を必要とします。けれども私たちはこの仕事をするために現世にいるのです。主はそれを私たちの手にゆだねておられるのです。私たちはそのことをよく心し，与えられている機会を逃したまま生涯を送ってしまうことのないようにすべきです。

もしも神殿に入る推薦状がもらえない人がいるとしたら，その人は過ちをおかしています。私はすべての聖徒に自分の過ちを正して主の前にへりくだり，悔い改めて主に向い，あなたの働きが要求されているこの仕事を行うようにすすめます。先祖たちはあなたが，この仕事をなすことを案じながら見ております。あなた自身の先祖に関心を持って機会を逃さず勤勉に行いなさい。私たちのこの世の生涯は短いのです。わずか数年でその生涯は閉じられてしまうのです。ここに集っておられる方々は百年後にはきっと一人もいらっしゃらなくなるでしょう。そして私たちは過去の人として数えられるのです。兄弟姉妹の皆さま，どうぞ一人一人先祖のための奉仕の機会を逃さず主の家で働いて下さい。共に先祖の救いのために働こうではありませんか。



伝道部長会メッセージ

第一副伝道部長

渡　辺　　驩

人間は元来英智として永遠から永遠に独立して存在してきた。この英智に，神は霊体を与えたまい，そのみそばに住まわせたもうた。前世で神を仰ぎ見つつ生活したわれわれが更に進歩し，神の如くなるためには救いの計画に従う必要があった。それ故，天父なる神はその御子イエス・キリストによってこの地球を創造し，アダムとイヴをエデンの園に置き，園の樹の実より自由に食べることを許したもうたが，善悪を知るの樹よりは食べてはならないと仰せになった。しかしイヴはそそのかされて先ずその実をたべ，次いでアダムにもそれを与えた。アダムはよく考えた末に，善悪の木の実をたべた。その結果，アダムとイヴとその子孫は霊の死と肉体の死をうけることになった。しかし，これらの死より贖われ，また救われなければ人は進歩して神の如くなり得ないので，前以って用意されていた救いの計画に基き，福音が世のはじめより教えられ，また時の絶頂に救主イエスが来りたもうた。救主は予言の如くこの地上での働きをなされ，われわれ人類の贖いと救いのために十字架上でその貴い生命をすてたもうた。それは救主の意志に反してとられたのではない。「これによりて父はわれを愛したもう。それはわれ再び生命を得んために命をすつる故なり。人これをわれより取るにあらず，われ自らすつるなり。われはこれをすつる権あり，またこれを得る権あり」と。（ヨハネ伝10章17～18）しかしこのようにして死にたもうた主が三日目に「眠りたる者の初穂」としてよみがえりたもうて全人類に復活の門戸を開きたもうたのである。救主イエス・キリストは確かに復活したもうた。天使も使徒もその他多くの目撃者がその真実なることを証している。朝早く墓所へやってきたかの婦人に，墓の戸口から石を転した天使は「彼はここには在さず，その云える如くよみがえりたまえり」と云っている。また一時は落たんの余り元の職業にかえろうとさえ考えたペテロが自分の生命をかけて「イスラエルの人々よ，これらの言をきけ，ナザレのイエスは，汝らの知るごとく，神かれに由りて汝らの中に行いたまいし能力ある業と不思議と徴とをもて汝らに証したまえる人なり，この人は神の定めたまいし御旨とあらかじめ知りたもうところによりてわたされしが，汝ら不法の人の手をもて釘礫にして殺せり。されど神は死の苦しみをときてこれをよみがえらせたまえり」（使徒行伝２章22～24）と証している。さらにエルサレムやガリラヤ地方の聖徒もモルモン経にでてくる数多くの弟子たちも主イエス・キリストが復活したもうたことを断言している。ただそればかりではなくわれわれには近代の予言者の証もある。「われらジョセフ・スミス（２代目）およびシドニー・リグドンは，わが主の1832年２月の16日，「みたま」を感じ，神に関する物事を見て覚るよう，「みたま」の能力によりてわれらの眼は開けわれらの覚りは明るくなれり。すなわち，誠に始めより御父の懐に在りし，御父の生みたまいし独子によりて，御父の定めたまいたる創世の前に始めより在りし物事を見て覚れり。われらこの御方に就きて証をなす。その証はすなわち御子イエス・キリスリの完全なる福音にして，われらは天界の示現の中に御子にまみえ御子と言葉を交えたり，……

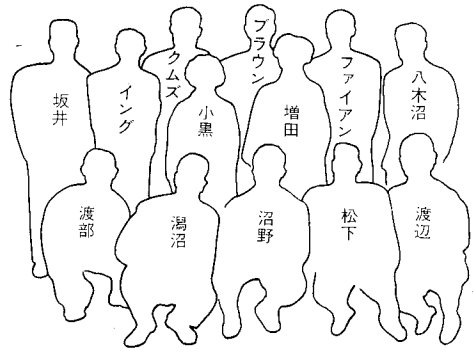
さて，この子羊に就きてなされたる様々の証の挙句，われらのなす最後の証はすなわち「主は実に生きたもう」こと是なり。われらは，彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また，御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり」と。（教義と聖約76章11～23）まことに主イエス・キリストは復活したもうて今もその教会を導きたもうのである。イースターを迎えるにあたり，われわれは今一度救主の復活が人類の贖いと救いに欠くべからざるものであることを再認識すると共に，主が死より復活したもうたように，時がくると万人はことごとくよみがえって自分に最も適した所に行くに違いないということを悟って，神とイエス・キリストの在す日の栄光の最高の位に昇ることができるよう努力しようではないか。

ブラウン副監督を迎え翻訳セミナー開かる

3月20日，来日されたブラウン副監督及び翻訳事業部ファイアン兄弟，クムズ兄弟を迎えて，第一回アジア翻訳セミナーが東京で開かれました。小松伝道部長挨拶に始まり，クムズ兄弟，渡辺兄弟が，翻訳部の機構，方針，活動計画などの説明を行いました。引続き渡部兄弟が一日の業務について，沼野兄弟が翻訳上注意を要する英語慣用句について，小黒姉妹が翻訳員とレビューアーの関係について，また，松下兄弟が日本語と英語の差異からくる翻訳上の諸問題について発表しました。

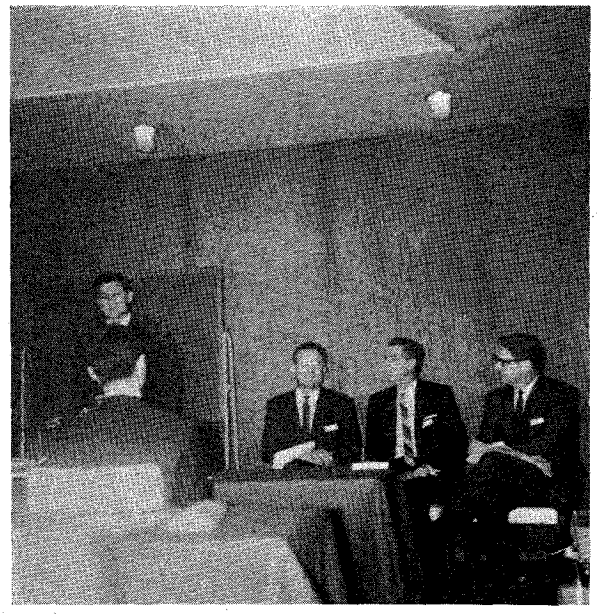
最後に，ファイアン兄弟，ブラウン副監督のメッセージがあり，会を閉じました。このセミナーには，中国語のコーディネーターイング兄弟が香港から参加されました。

翌日，クムズ兄弟を中心に，渡辺，イング，松下兄弟が集い，コーディネーターセミナーを行いました。韓国のハン兄弟は，旅券の都合で来日できませんでした。

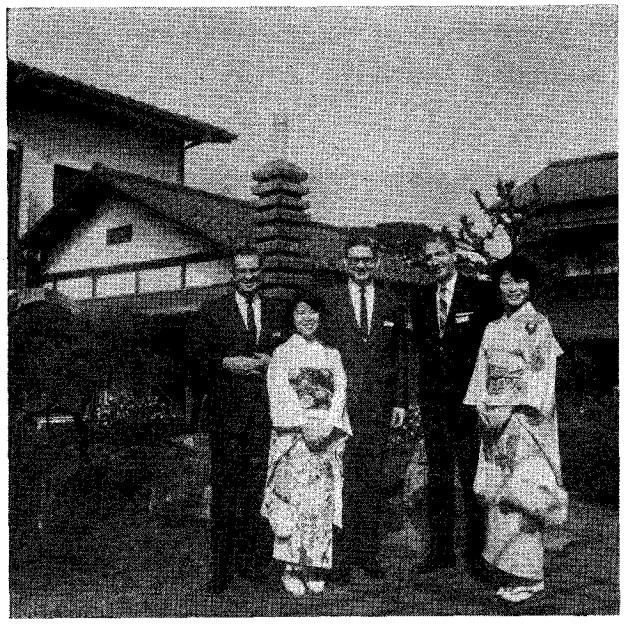


渡　辺　　驩（極東地区スーパーバイザー）
松　下　泰　洋（日本語コーディネーター代理）
渡　部　正　雄（翻　　訳　　員）
八木沼修一（　　〃　　）
沼　野　治　郎（　　〃　　）
小　黒　雅　子（　　〃　　）
増　田　幸　子（　　〃　　）
坂　井　　圭（総　　務）
潟　沼　誠　二（パートタイム翻訳員）

寄せ書を手にして



挨拶する小松伝道部長



来日された三人の指導者，右よりファイアン兄弟，
ブラウン副監督，クムズ兄弟

中国語コーディネーターのイング兄弟

お知らせ

伝道本部の電話番号が4月30日から次のように変更になります

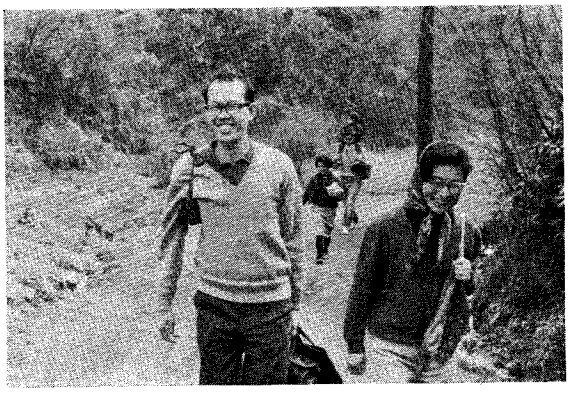
(03) 442－7438 (代表番号)
7439

支部だより（横浜支部）

２月25日安息日にキンボール使徒御夫妻をお迎えした横浜支部会員一同は思いがけない祝福に大喜び御夫妻は忽ちに笑顔の兄弟姉妹子供たちに取巻かれてしま った。

３月８日　岩波兄弟は水野支部長司式の下にめでたく遠藤姉妹と結ばれました。

３月20日　早起きマラソン大会　一着はアメリカで学生時代にならしたシンプソン長老９才の渡部正末兄弟も，よく敢闘12位を克ち得た。



ピクニックのパパとママ

早く登っておいでよ！

せいぞろいで記念撮影

いい眺めね、きれいだわ

3月20日

快ちよい春日和の祭日支部の有志たちは、鷹取山へピクニックにでかけました。パパとママ、ぼくとわたし、賑やかな家族グループも参加して、自然の中で、笑顔の一日を楽しみました。

三　宮　支　部

家族一同がモルモンでなければ、生活総てが福音ということはなかなかむづかしくなつてきます。生活の中に福音が生きてこそ真の福音であります。そういう意味において三の宮支部ではやつとモルモンの教会らしくなり始めたといえそうです。

教会のプログラムが、若い独身者中心から、家族・家庭中心のプログラムへと変りつつあるのもそれを意味していることと思います。

最近宮内孝行兄弟村野康子姉妹の結婚を始め、杉本兄弟姉妹、山邑兄弟姉妹、ソルトレークのモルモン農場で改宗された西川兄弟姉妹、そして近く釜石兄弟として若い姉妹達も教会堂の整理整頓と頑張つております。ワード・ステーキをつくり日本の地にシオンの杭が一本二本と建てられて行かんことを望みつつ、又私たちがその杭を打ち建てる者とならんことを心に誓いながら一歩一歩を着実に進んで行く決意をして努力しています。

宮内ご夫妻

西川ご夫妻

次々に教会の中心になつて働いておられる兄弟・姉妹が結婚されて行きます。

モルモンの家族のためにホームテーチングと系図に力を入れております、そして若い人達も近ごろは組織を通して良く働いています。アロン神権者は月一度の伝道プログラムおよびワックスで教会の床磨き、またガールス・プログラムと

聖徒の道
昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六八年四月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十二巻第四号

スポークン・ワード
"The Spoken Word"
リチャード L・エヴァンズ

誕生か、よみがえりか？

我々は宇宙に存在するひとつの遊星に住んでいる。日の出と日没，種まきと収獲，移りかわる四季，そしてすべてのものの成長と変化とを備えられ，人々とその探求心，学ぶ力，愛するものへの愛，神の摂理を証しする諸々のことがらを恵まれながら，美しいこの星に生活している。このことは自然の力なのか，それとも自然以上の力なのか？

最初に何か，あるいは何ものかがどのようにしてこの地上へ来たのか。いつ，すべての始まりがあったのか。誰が宇宙を創造したかという質問は言いふるされた問いである。誰が宇宙を組成し，誰がその運行を定めたのか。我々の承知している通り周囲は奇蹟に満ち我々は奇蹟の中に生きている。春に先がけて咲く一輪の花，冬の死と眠りを破ってほころぶつぼみ。誕生こそは奇蹟である。手はつかみ目はみつめ耳は聴こうとし英知は真理へと反応する——新生児こそは厳粛な畏怖すべき奇蹟である。我々が生きてここに存在し，考え学び愛すること，これらすべては奇蹟であり神秘である。本能を動物に与えたのは誰か。身体をいやす知恵を与えたのは誰か。接合と分離の知恵を細胞に与え，眼，歯，頭髪となしたのは誰か。自然か，超自然か？

パスカルは言う。

「生まれるとよみがえるとではどちらが困難か」（「パンセ」24巻）

死すべきことは確かに不死不滅と同様に，大いなる奇蹟である。我々に生命を与え給うた主なる神はたしかに永遠に存続する生命をも与え給うことができる。信じる者には信仰が祝福され，さらに信念を越えて確固とした知識さえも祝福される。たずね求める者，悲しみにうちひしがれている者，おそれおののいている者，疑いを抱いている者，道に疲れている者，彼らにとってこれこそは確信であり，救い主に対する確固たる証しである。我々のため，すべての者のために救い主は死から生命へとよみがえり給い，すべての者を死から贖われた。ヨブによってその確かなことが知らされるではないか。

「私は私の贖い主が生きておられることを知っている。

生命を愛するあなたへ，愛する者を失ったあなたへ。このなぐさめ，この確信を今もそしてどんな時にも心にとめなさい。

（1967年5月19日，K,S,L及びコロンビア放送によるテンプルククウェアよりのスポークンワード。版権1967年）

ＦＥＮ放送（810kc）で毎日曜日８：05～８：30ａ.ｍまで、スポークン・ワードとタバナクルコーラスが放送されています。